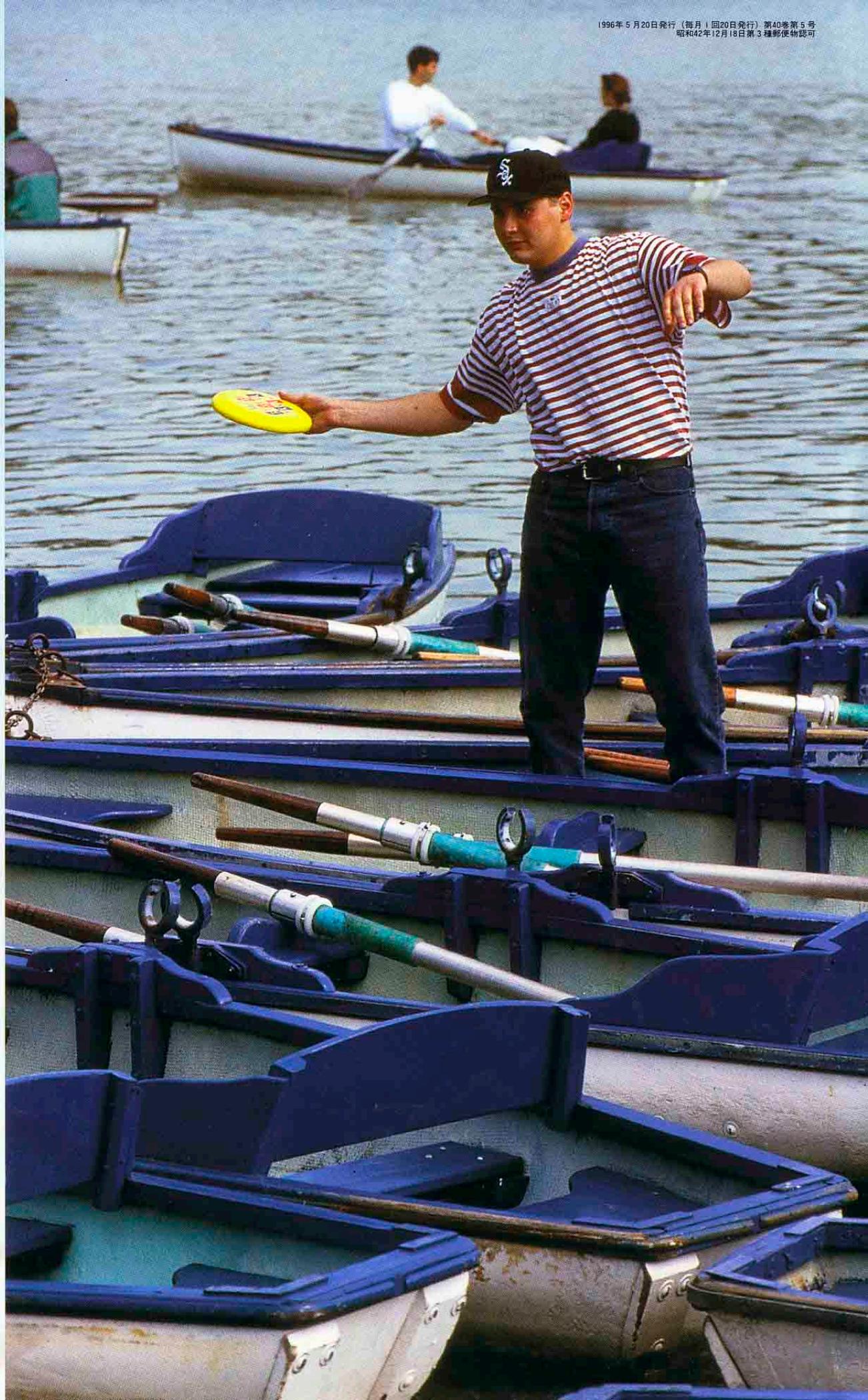


聖徒の道

5
1996



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1996年5月号



表紙——公園で楽しいひとときを過ごす、フランス、パリの独身成人たち。(ベルサイユ宮殿を取り囲む公園にて。)裏表紙——エッフェル塔(左)の下でも、地中海沿岸(上)でも、フランスの教会員は互いに愛し、支え合っている。それは、アングレームの教会付属図書館(中央)でもクリシ支部の初等協会でも、バヨンヌ支部(下)のスカウトプログラムでも同様である。(本誌「フランス」p.32参照。写真/デビッド・ガント、ラリー・ガント)

こどものページ——奉仕の業を終えるに当たり、イエスはパンと水を祝福し、主を思い起こすためにこれらのしるしを取るよう、使徒たちに言われました。現在でも、わたしたちは同じ儀式にあずかっています。聖餐を取ることによって、わたしたちはイエスを思い起こし、主の戒めを守るという約束を新たにしますのです。「分かち合いの時間——イエスをおぼえる」p.10参照。絵/デル・パーソン)

一般

大管長会メッセージ——「恐れることはない。ただ信じなさい」	
大管長ゴードン・B・ヒンクレー	2
夢と約束 パーラ・ガルシア・デ・ブラボ	8
手紙につづった日記 ローラ・S・ショートリッジ	11
キリストの言葉をよく味わう スペンサー・J・コンディー	16
フランス ラリーン・ガント	32
ささやかな行いから リト・B・リガスピ	46
父の言葉 トーマス・ハンコック	48

青少年

求む、アロン神権者! デビッド・B・ヘイト	12
怒りを静める ダリン・リスゴー	22
ゆっくりと、しかし着実に	25
御霊を感じる アーロン・リー・シル	28
君がいるから ローレンス・ヘイウッド	30

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——「大いなる癒しの力」	24

こども

ゴードン・B・ヒンクレー大管長 ジャネット・ピーターソン	2
預言者クイズ	4
昔のカレンダー デビー・デビッドソン作	5
わたしの家族の木	8
分かち合いの時間——イエスをおぼえる	
カレン・アシュトン	10
大好きな人にプレゼントをする日 マーガレット・シャウアーズ作	12
友だちになろう——	
ブエルトリコのボンセに住むアイリス・ジョアン・アルバラド	
コーリス・クレイトン	14

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレ、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイズリング

編集長：ジャック・H・ゴーズリンド
顧問：スペンサー・J・コンディー、L・ライオネル・ケンドリック
教科課程管理部責任者
実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー
工程管理：メアリーアン・マーティンデル
出版補佐：ベス・デーリー
デザインスタッフ
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル
予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグ
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1996年5月号第40巻第5号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

Copyright © 1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1994年8月 翻訳承認—1994年8月 原題—International Magazines May, 1996, Japanese, 96985300

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/001006-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。
●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seto No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150, U.S.A. and Canadian subscription is \$9.00 per year. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

神の美しいご計画

専任宣教師たちが我が家を訪れてくれたおかげで、わたしはそれまでその存在すら知らなかった福音の原則について学ぶことができました。教会に出席すると、いつも皆が温かく歓迎してくれました。自分も神の霊の子供の一人であり、神はわたしのために美しいご計画を備えてくださったことを学び、わたしはバプテスマを受けました。その後、両親、それに弟と妹も教会に入りました。

バプテスマを受けてから数多くの訓練に遭いましたが、わたしには教会に対する揺るぎない証^{あかし}があります。わたしは今、セミナリーのクラスを教え、支部の若い女性会長会で第二副会長として働いています。『リアホナ』(英語版)に書かれた記事は、これまでずっとわたしの力の源となってきました。例えば、トーマス・S・モンソン副管長の大管長会メッセージ、「信仰による祈り」(1995年3月号)という記事を読み、祈りに対して、また神がわたしたちの祈りにどのようにこたえられるかについてさらに理解を深めることができました。

天父が、主の預言者、聖見者、啓示者からの勧告の源としてこの機関誌を与えてくださったことに心から感謝しています。

フィリピン、ナガ伝道部
マスバテ支部
ジョセフィン・C・バイエス

心の平安

『リアホナ』(スペイン語版)のおかげで、わたしの人生は180度変わりました。15年前に末日聖徒イエス・キリスト教会でバプテスマを受ける以前、わたしはカトリック教会の熱心な信者でした。教会の実務組織で活発に働き、国中で奉仕し、その組織の代表として数々の国際的な大会にも出席していました。

この教会に最初に出会ったのは二人の息子、ハイメとベルナルドでした。二人は事あるごとにその教えについて

わたしに伝えようとしていましたが、わたしは、自分の信仰を変えるつもりはない、と憤然とした態度で言ったものでした。

ある日、わたしは好奇心からテーブルの上に置いてあった『リアホナ』を手にとって読み始めました。最初に載っていたスペンサー・W・キンボール大管長の説教を読んだとき、一条の光に照らされたように感じました。彼のメッセージは、わたしがそれまでずっと渴望してきた何かを与えてくれたのです。それから1週間もしないうちにわたしは宣教師と会い、その後息子のハイメ(現在は監督をしています)からバプテスマを受けました。

妻はまだバプテスマを受けていませんが、わたしに協力してくれますし、地元の教会員にも好意的です。神殿とともに結び固めを受ける日まで、辛抱強く待つつもりです。

あの日初めて『リアホナ』を読んだことは、わたしの人生を変えただけでなく、わたしの心に平安をもたらしてくれました。

ボゴタ、コロンビアステーク
アランプラワード
ハイメ・レイ・ガルビス

改宗の道具

この教会の教えを学び始めたころ、何冊かの『リアホナ』(スペイン語版)をもらいました。その中の記事は、わたしの疑問を解決する糸口となり、そのおかげでわたしは宣教師のレッスンを受け入れ、1987年6月27日にバプテスマを受けました。

後に、わたしはエクアドルのグアヤキルで伝道し、帰還宣教師と結婚し、そして母親となりました。靈感を受けて機関誌をわたしに下さった素晴らしい会員にほんとうに感謝しています。わたしの証は今も『リアホナ』を読むごとに絶えず強められています。

エクアドル、サント・ドミンゴステーク
ラス・バルマスワード
ルース・エレナ・デ・クアイカル



「恐れることはない。 ただ信じなさい」

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

主の業が進展しているにもかかわらず、また、大勢の人々の生活が変わるのを目にしているにもかかわらず、わたしたちはしばしば問題の方を強調し、進歩している面にはあまり目を向けようとしません。

わたしは主の業に対しては楽観的です。主がこの地上における御業を破れるものとして打ち立てられたとは信じられません。また、主の業が弱まっているとも信じられません。逆に強まっていることをわたしは知っています。もちろん、わたしたちは数多くの悲劇的な問題を抱えた世界に置かれています。わたしは新聞をよく読むとともに、世界各地の様子を目にしてきました。これまで、戦火の絶えない、人の心から憎しみの消えることのない地域を旅してきました。また多くの国々を悩ませている、たえようもない貧困を見てきました。束縛されている人々の悲しみ、支配者から受けている過酷な仕打ちを目の当たりにしてきました。さらに、わたしたちの社会の倫理観が廃れていくのを、大きな懸念をもって見てきました。

それでもなお、わたしは楽観的です。わたしには、正義は勝利を収め、真理は進み続けるという単純で^{あかし}厳粛な証があります。わたしは問題が何もないと信じるほどお人よしではありません。しかし、「真理はいくら地に打ちのめされても、再びよみがえる」のです。



ダニエルはネブカデネザル王の夢を解き明かし、王国は「いつまでも滅びることがな」と預言しました。わたしたちが代表する特権にあずかっている大義とは、まさにこの永遠に至る王国なのです。わたしは実際に王国の力を物語る奇跡と、世界中の何百万もの人々の人生にますます大きな影響を及ぼしつつある様子を連日のように目にしています。



PHOTOGRAPH BY SCOTT VAN KAMPEN

この疑いと不信仰の時代に、自身の生活と仕事のある大勢の若人が、主の奉仕の業のために1年半ないし2年間をささげています。人々に幸せな生活について教えたいと切に願うがゆえに、たゆまず努力を続け、進んで断食し祈っています。これが奇跡でなくて一体何でしょうか。

今から約62年前にわたしは伝道に出ました。そのとき父から（英語で）5つの言葉を書いたカードを渡されました。それは、自分の娘の死を知らされた会堂司への主の言葉でした。「恐れることはない。ただ信じなさい。」（マルコ5：36）このテーマに添ってお話したいと思っています。

王国は永遠に至る

わたしはイエス・キリストの福音が勝利を収めること、そして地上において教会、すなわち神の王国が勝利を収めることを信じています。悪とその勢力が次第に増すのを目の当たりにして信仰がくじかれる思いのする人は、ネブカデネザルの夢を解き明かしたダニエルの物語を読み返してください。ダニエルは「秘密をあらわすひとりの神」（ダニエル2：28）に信頼を寄せました。そして、

わたしたちの時代についてこう述べています。「天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです。」（ダニエル2：44）

わたしたちが代表する特権にあずかっている大義とは、まさにこの永遠に至る王国なのです。

神の王国の未来について考えるとき、わたしは非現実的な夢物語におぼれているわけではありません。わたしは実際に、王国の力を物語る奇跡と、世界中の何百万もの人々の人生にますます大きな影響を及ぼしつつある様子を連日のように目にしているのです。しかし、神の王国は非人間的な巨大組織ではありません。その実は、王国を受け入れた人々の人生に、平安という形で現れます。

確かに、わたしたちは問題を抱えています。完成にはほど遠い状態です。それでも、絶えずわたしの信仰を強めてくれるすばらしい出来事をたくさん見てきました。

若人への信頼

わたしは教会の若人に信頼を寄せています。その立派な態度と善良さ、そして清さに信頼を寄せています。わ

たしは何千人もの若人と個人的に面接をしてきました。もちろん、悪の道に踏み迷った人もいますが、ごく少数です。

前に南ベトナムを訪れたときのことを思い出します。200人から300人の男性と個人的に話しました。戦火と流血をくぐり抜けてきたにもかかわらず、清い生活を送ってきた人々です。その中に、停戦区域近くのロックパイルから生還したばかりの青年がいました。彼は道徳的に清い生活をしてきたかとの問いに対して、「もちろんです。戒めを破ることなどできません。ふさわしくあって、いつかすばらしい女性と結婚したいですから」と言いました。

宣教師の奉仕

わたしは教会員に備わった奉仕の精神に信頼を寄せています。わたしは教会の伝道部をずっと訪問してきました。今、4万9,000人の宣教師がいます。彼らは自費で、また家族の援助を受けて活動しています。人生の中の1年半ないし2年間を主にささげた人々です。彼らの1日の働きは長く、彼らの1週間は多忙で過酷です。彼らは確信に満ち、説得力のある話し方で、生けるキリストとその驚くべき業の価値について証を述べます。

ある宣教師からの手紙を紹介しましょう。「わたしたちが御業に携わる中で見いだした最も効果的な方法は、断食と祈りです。数週間前、ある求道者のことでそれを実感しました。彼には疑問や解決しなければならぬ問題が山のようにありました。彼と会ってそのことについて話したときには、解決の糸口さえつかめないうでした。そこでわたしたちはアパートに戻り、彼に祝福が注がれてわたしたちの説明したことを理解してくれるようにと主に祈りました。また、わたしたちは彼にとってバプテスマを受けることがとても大切だと感じたので、彼にバプテスマを受けたいという気持ちを授けてくださるように祈りました。彼は6つ目のレッスンを終えてもまだ心が揺れ動いていました。そこでわたしたちはバプテスマの前日に断食をしました。以来彼は忠実な教会員として生活しています。」

奇跡を起こせないことをつぶやく弟子たちへの主の言葉が思い出されます。「このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない。」(マタイ17:21)

献身という奇跡

この疑いと不信仰の時代に、自身の生活と仕事のある大勢の若人が、主の奉仕の業のために1年半ないし2年間をささげています。人々に幸せな生活について教えたいと切に願うがゆえに、たゆまず努力を続け、進んで断食し祈っています。これが奇跡でなくて一体何でしょうか。わたしにとって、彼らのそばにいて彼らのスピリットを感じることに新たな力がわいてくる経験はありません。宣教師は若人への信頼を取り戻させてくれます。そして、主への信仰をよみがえらせてくれるのです。

両親への感謝

わたしは若人のすばらしさを示すバロメーターがもう一つあると信じています。パウロは、終わりの時に人々が恩を知らぬ者、神聖を汚す者、親に逆らう者、無情な者になると警告しました(2テモテ3:1-3参照)。この預言が成就しつつあることは、その例をわざわざ現代の家庭の外に求めなくとも分かります。しかしわたしは、この預言を否定する数多くの事例を見てきました。わたしは若い宣教師たちを訪問する度に、大勢の若い男女が自ら立ち上がって自分の気持ちを述べる場に遭遇します。そのとき、ほとんど例外なくすべての宣教師の口から出るのは、両親に対する感謝の言葉です。19歳、20歳、21歳、22歳の若い男性、女性が仲間内だけのそうした会で互いに立って、「父に心から感謝しています」「母を愛しています」と述べ合う姿は、実にすがすがしいものです。彼らは特に感傷的な人々ではありません。男らしく、スポーツマンで、有能な若い男性であり、あるいは魅力と教養に満ちた若い女性なのです。彼らの言葉はうわべだけのものではありません。彼らのこの思いには、今の時代にあって、蒸し暑い夜に吹く涼風のようなすがすがしさが感じられます。

改宗者の熱意

主はこう宣言されました。「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために……^{みくに}宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ24:14) このことが実現する可能性はあるのでしょうか。以前わたしは、それがどのように起こり得るかを示唆する一つのビジョンを得ました。

南アメリカでのことです。わたしは改宗したばかりの一人の女性に会いました。彼女は自分が見いだした福音への愛がとても強かったので、ほかの人々に熱心に話して回りました。バプテスマからわずか7か月の間に、彼女は300人も^の知人を宣教師に紹介し、福音を教えよう手はずを整えました。ある時点でその中の60人が改宗しました。今の段階では、その数はもっと多くなっていることでしょう。わたしはブラジルのサンパウロで、彼女に初めて福音を教えた若い宣教師に会いました。彼自身改宗者で、経済的に多大な犠牲を払って、教会の代表者として伝道に出ました。わたしが話しているこの女性は、この宣教師がこの時点までに教会に導いた43人の中の一人にすぎませんでした。このブラジルの若人は100倍もの成果をもたらしました。自分が改宗した43人に加えて、その中の一人が60人を改宗したのです。彼のほかの改宗者たちもまた、新たな改宗者を連れて来ることでしょう。

御業には信仰が必要である

確かに、この業には犠牲が伴います。^{みわざ}努力が必要です。人に話す^{おこ}勇氣とやってみる^{おこ}信仰が必要です。この御業に評論家は必要ありません。疑う人も必要ありません。必要なのは、厳粛な目的を持った男性と女性です。パウロはテモテにこう書いています。「神がわたしたちに下さったのは、臆する^{おこ}霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)

パウロは、終わりの時に人々が恩を知らぬ者、神聖を汚す者、親に逆らう者、無情な者になると警告しました。しかしわたしは、この預言を否定する事例を見てきました。大勢の若い男女が両親に感謝の言葉を語るのを耳にしてきたのです。

この教会のすべての会員がこの聖句を見える場所にはっておき、毎朝1日を始めるときにぜひ読んでほしいと思います。この言葉はわたしたちに、人に話す勇氣とやってみる信仰を与え、主イエス・キリストに対する信仰をより確かなものにしてくれます。このことを行えば、地上にさらに多くの奇跡が生まれることでしょう。

わたしは神が生きておられ、イエスがキリストであり、この業が主の神聖な御業であることを知っています。わたしは皆さんとともに、神聖な御業を大いなる行く末に向かって発展させる力と信仰と熱い思いを授けてくださるように、天の神に願ひ求めます。□

ホームティーチャーへの提案

1. 時折苦境に立たされることはあっても、主の末日の偉大な業は破れることなく、これからますます力強く前進するであろう。
2. 教会には善良で立派な若人、両親とその義にかなった教えに感謝する若人が大勢いる。
3. 奉仕はこの民のモットーである。特に、福音を必要とする人々への奉仕に携わる教会内のすべての若人や夫婦、教会員のモットーである。
4. 主の末日の業には犠牲と努力、勇氣、信仰が必要である。
5. 使徒パウロのテモテへの勧告はわたしたちへの勧告でもある。毎日その勧告を心に留めれば、わたしたちは祝福を受ける。「神がわたしたちに下さったのは、臆する^{おこ}霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)



夢と約束

パーラ・ガルシア・デ・ブラボ

その日自分たちの目にした驚くばかりの出来事について考え、
また子供たちの交わした美しい約束を思い、
皆とめどなく涙を流しました。

夫とわたしが、4人の子供のうち
の二人を連れて、我が家の小さな
車で家を出発したのは、朝5時のこ
とでした。激しい雨が車のフロントガ
ラスに打ちつけ、道路もよく見えない
有様ありさまです。そんな天候にもかかわらず、
わたしたちは皆、心を躍らせていまし
た。1983年9月のこの日、わたしたち
はチリのサンティアゴに完成した神殿
の奉獻式に向かうところだったのです。

当時副監督を務めていた夫は、神殿
内の大きな部屋の一つで行われる奉獻
式に参加するための整理券を、すでに
2枚受け取っていました。上の二人の
子供たち、つまり10歳になるイゴール
と9歳のパリータは、神殿の近くにあ
る礼拝堂でケーブルテレビを通じて奉
獻式の様子を見ることにしていました。

もう一人の副監督であるバスーアル
ト兄弟も、奥さんと一緒にわたしたち
の車に同乗していました。二人も、我
が家の子供たちと一緒に集会所で奉獻
式の様子を見ることになっていました。

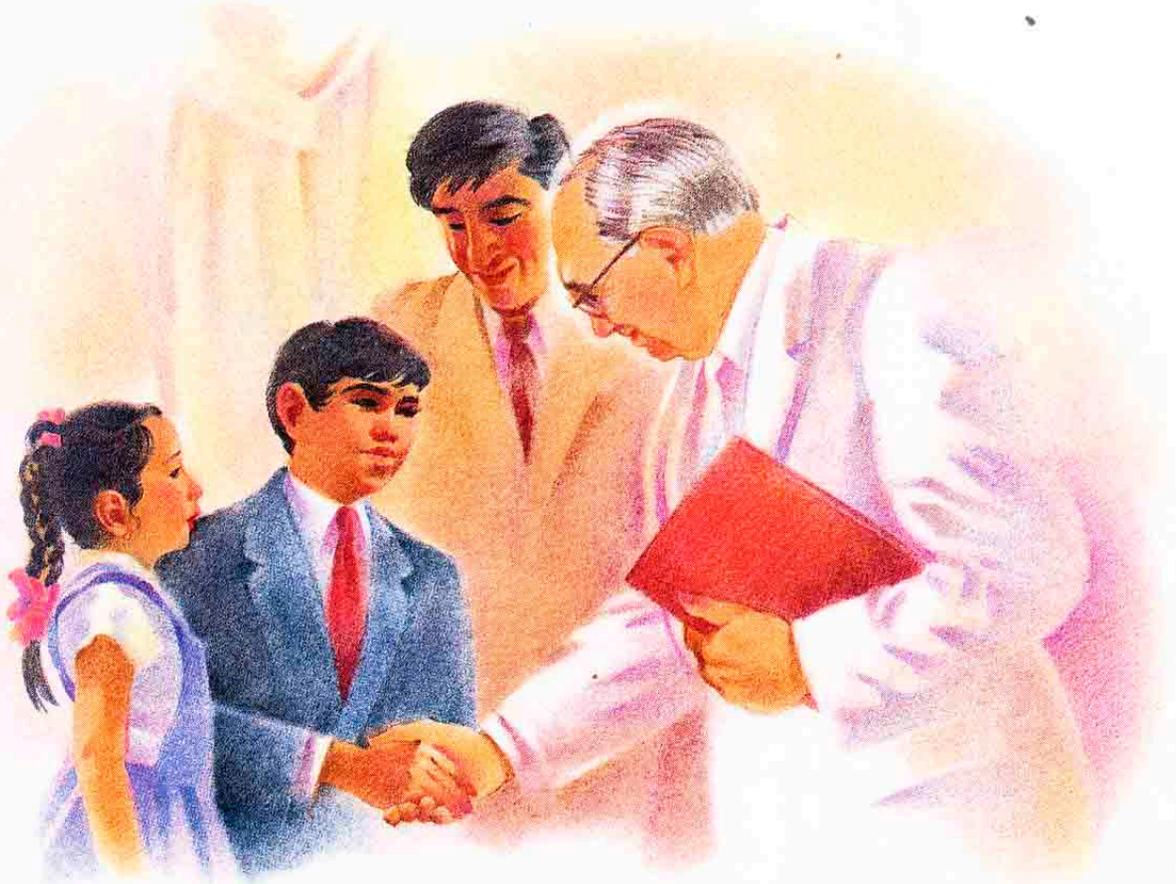
わたしたちが車を運転しているとき、
バスーアルト姉妹が前の晩に見た夢の
話をし始めました。「主人とわたしが、
お宅の子供さんたちと一緒に、礼拝堂に
座って、奉獻式の開始を待っていたの
ですと突然、アッシャーの一人がやっ
て来て、こう言うの。『わたしについて
来てください。神殿内に、空席がまだ
4席ありますから。』その人はわたし
たちを神殿の中へ連れて行くと、前の
席に座らせたのよ。あんまりはつきり
していて、まさか夢だとは思わなかつ
たわ。奉獻式が終わると中央幹部たち

が参列者と握手を始めたの。幹部の一
人がお子さんたちにも話しかけてくだ
さったわ。」彼女の話を聞きながら、
わたしたちは平安な気持ちに包まれて
いました。雨は相変わらず土砂降りです。

神殿に到着しました。神殿は嵐の中、
堂々たる景観です。雨を避けるため大
きな傘を差したわたしたちは、子供た
ちとバスーアルト夫妻を礼拝堂に残し
て、神殿の指定された席へと急ぎまし
た。奉獻式は、御霊が豊かに注がれ、
何ものにも代え難い体験となりました。
今思い出しても、温かい平安な気持ち
がよみがえってきます。奉獻式が終
わった後も、聖歌隊員が心一つにし
て主をたたえる賛美歌を歌い続けてい
ました。

夫とわたしは神殿を後にし、子供た





ちや友人と合流するために礼拝堂へ向かいました。しかし、どこにも彼らの姿は見当たりません。ひどく心配になって、だれか見た人がいないか、尋ねてみました。すると、こう言われたのです。「奉献式の直前になって、だれかが4人とも神殿へ連れて行きましたよ。」わたしたちが神殿の方を振り返ると、その4人が神殿の庭の中を歩いているではありませんか。

すぐにわたしたちは再会を喜び合いました。バスーアルト姉妹が目には涙を浮かべて叫びました。「何もかも、わたしが見た夢のとおりになったの。」すばらしいことに、彼らは現実に主の宮の中に入って席に着けたのです。そして、うれしそうに話してくれたことによれば、奉献式が終わったとき、当時第二副管長だったゴードン・B・ヒンクレー長老が息子のイゴールのとこ

ろへ来て、通訳者を通して話しかけてくれたのです。

「何歳ですか」とヒンクレー副管長は尋ねました。

「10歳です」とイゴールが答えました。

「この主の宮の中でわたしに約束してくれるかな。時期がきたら、どんな問題があろうとも、必ず宣教師になって伝道に出るって。」

「はい、約束します」と息子は静かに答えました。

次に、ヒンクレー副管長は娘のパリータの方を向いて言いました。「さて、大切な大切なお嬢さん、あなたもわたしに約束してくれますか。主の宮の中で結婚できるように、自分自身を清く保つて。」

娘ははにかみながら、「はい」とうなずきました。

その日わたしたちの目にした驚くばかりの出来事について考え、また子供たちの交わした美しい約束のことを思い、皆とめどなく涙を流しました。

あれからもう10年以上の月日がたちました。その間に、ヒンクレー副管長は大管長になりました。そして夫とわたしは、敵対する者の火の矢に立ち向かう二人の子供の姿を見てきました。二人が堅く立って、幼いときの約束を守る姿を見てきたのです。イゴールはチリのビニア・デル・マール伝道部で専任宣教師として働きました。そして、妹のパリータは美しいチリ・サンティアゴ神殿で帰還宣教師と結婚しました。この神殿こそ、パリータと兄のイゴールが主の僕と特別な約束を交わした場所であり、また夢が現実のものとなるのを確かに目にした場所だったのです。□

手紙につづった日記

ローラ・S・ショートリッジ

わ たしには94歳になる祖母がいます。4年前、「彼女の残りの生涯の間、毎週手紙を書き続けよう」と決心しました。そして、数年来祖母の世話をしてきた母が、視力の衰えた祖母のために、わたしからの手紙を読んで聞かせてくれています。

毎週手紙を書くのは容易ではありませんが、決めたことはやり遂げようと努力してきました。そのおかげで、二つの祝福がわたしにもたらされました。一つは予想したとおり、母と祖母とが我が家の日常の出来事を読むにつれて、わたしの5人の子供たちをよく知り、愛するようになってくれたことでした。

もう一つの祝福は、わたしが手紙を書き始めて1年がたったころに訪れました。わたしは知らなかったのですが、母がわたしの書いた手紙を全部取っておいてくれたのです。1年分の手紙がたまると、母はそれを束にしてわたしに送り返してくれました。

昔の自分の手紙を読むうちに、わたしが手にしているのは事細かに記された家族の日記であることに気づきました。大まかな出来事は自分の日記に記してはいましたが、手紙の一枚一枚には家族の日々の行動がとても詳細に、

いきいきとつづられていました。この予期せぬ家族の日記は、わたしたち家族の生活を目の前で見られるように鮮やかに描き出してくれました。これらの手紙は、わたしの子孫が、わたしたち家族の成長していった様子を知る助けにもなるでしょう。□



求む、アロン神権者！

十二使徒定員会会員
デビッド・B・ヘイト

皆さんは、その働きと信仰を通じて、アロン神権者というチームの中でさらに価値ある存在となれるのです。

自 慢話というよりは、告白といった方が適切なのですが、実はわたしは高校時代、フットボールをやっていました。

フットボールはわたしたちの田舎町にかなり遅れて入って来ました。教育委員会には、設備費もありませんし、コーチもいません。その代わりに、バスケットボールならだれもがしていました。必要な道具といえば靴だけでよかったです。

ところがついにわたしたちの高校の校長が、12組の安いフットボール用品をそろえてくれたのです。ただし、シューズは別でした。スパイクの付いたフットボールシューズは高価だったからです。代わりに自分たちのバスケットシューズを用いました。コーチは、教職員の中から抜てきされました。理由は、この人しかフットボールゲームを見たことのある人がいなかったからです。

わたしたちは、幾つかの簡単なプレーとタックルの仕方（それがタックルというものだと思っていただけなのですが）を教わると、早速、ツインフォールズ校との初めての試合に出かけて行きました。彼らは前年度のアイダホ州の優勝チームでした。

わたしたちはユニホームに着替え、フィールドに出て準備運動をしました。相手高校のバンドが演奏を始めます。バンドの学生は、わたしたちの高校の全生徒数より大勢です。相手チームが門をくぐって入って来ました。わたしたち12人（選手11人と万能補欠1人）は、彼らが門を通過して入って来るのを驚きの目で眺めました。39人全員がおそろいのユニホームを着けていたのです。

ゲームは非常におもしろいものでした。良い経験だっ

たと言うと、かなり控えめな言い方かもしれませんが。2回目のプレーを終えたころには、わたしたちはボールを持ちたいとは思わなくなっていました。そこで、ボールをキックしました。すると相手の方が得点する結果になりました。わたしたちの課題はボールから遠ざかることでした。その方がタックルされず、けがをしなくて済むからです。

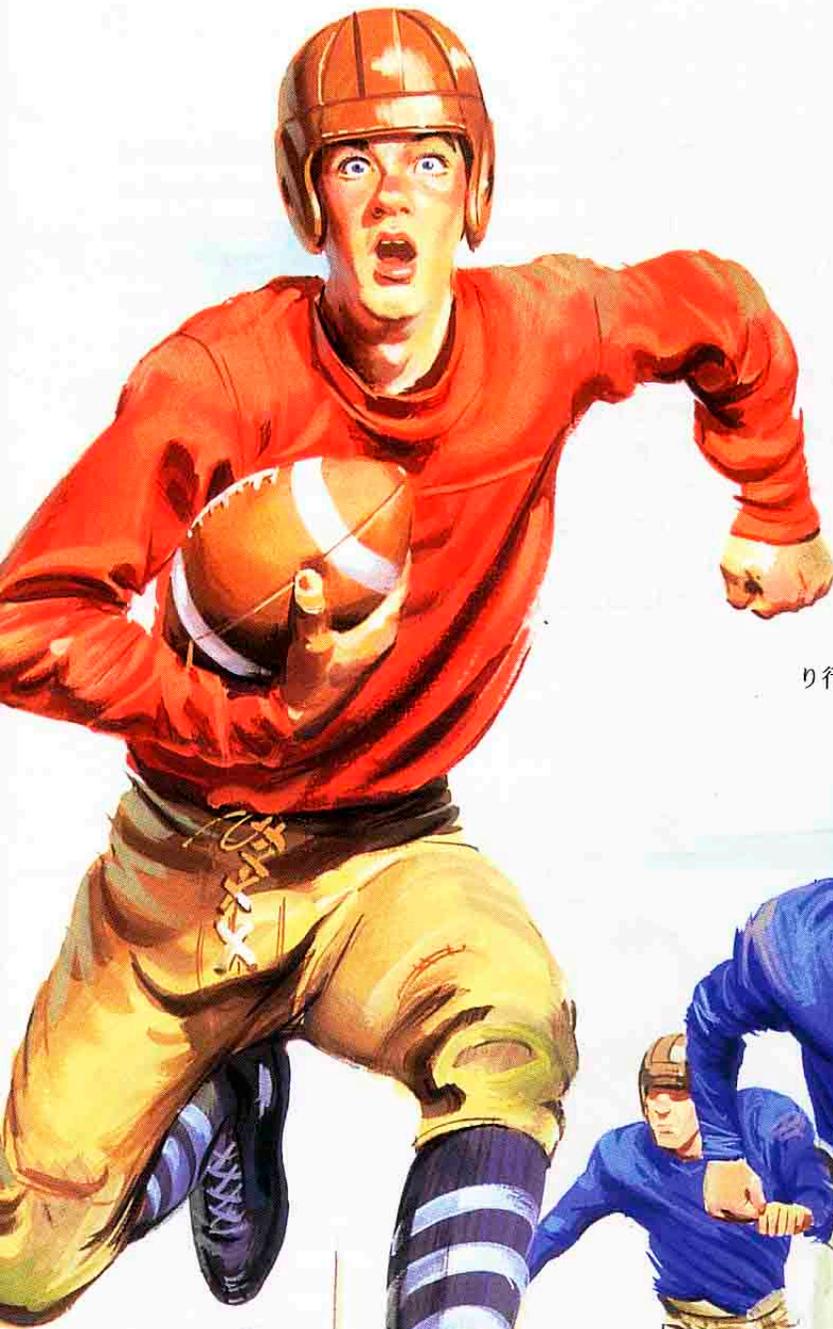
試合の終わり近くになって、相手チームはやや無鉄砲なプレーを始めました。相手のパスしたボールが大きくそれて、わたしのそばでハーフバックをしていたクリフォード・リーの腕に、飛び込んで来たのです。彼はどうしていいかわからず、一瞬立ちすくんでしまいました。相手チームが嵐のように彼を^{あらし}目がけて突進して来るのを見ると、目が覚めました。もう得点に興味はありません。自分の命を守るために走ったのです。

その逃げ足の早かったこと、彼はタッチダウンし、ようやく得点板に6点が掲示されました。ほんとうはその6点さえ、取れなくても仕方のない試合だったのですが、シャツや靴下をぼろぼろにし、すねから血を流して、ともかくも奪った得点なのでした。結局試合は、106対6の完敗でした。

その試合は確かに良い経験となりました。チームとして（あるいは個人として）準備の必要性について学べたからです。何事であれ、勝利は、前もって準備するかどうかにかかっています。

世界地図を眺めながら、その広大さやそこに住む何十億もの人々について考え、主が年若いアロン神権者に託された責任に思いをはせると、わたしは、主が皆さん一人一人を、それぞれの家族のもとに、また、この特別な時代の特別な環境の下に置かれた事実に驚嘆せずにはいられません。

世界中どの国も、真理、正直、清さ、高い道德標準、生ける神への信仰を持った若い人々を必要としています。アロン神権を通じて、主は皆さんがそのような若人になれるよう備えておられるのです。皆さんは、聖なる神権



かぎ
の鍵と権利と責任を与えられています。混乱に満ちた世界の人々は、皆さんから福音を聞こうと待っています。主は皆さんに、主の名によって行動し、福音を説き、人を永遠の命へと導く救いの儀式を執り行う神聖な力と権能を授けられました。皆さんは世のほかの人々とは異なっているのです。

ジョセフ・スミスは、記者オリバー・カウドリとともに『モルモン書』を翻



ILLUSTRATED BY PAUL MANN

MANN

訳しているとき、主にバプテスマについて祈り尋ねるために森に入って行きました。彼らが主を呼び求めていると、「天からの使者が光の雲の中を降って来られ」、二人の頭の上に手を置き、次のように言って二人を聖任されました。

「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使

わたしたちは、**聖餐のトレイとクロスがいつもきれいで清潔であるようにしました。わたしたちは教会の一部であり、教会はわたしたちの一部でした。**

の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。」（ジョセフ・スミス—歴史1：68-69）ジョセフ・スミスはこの使者から、オリバー・カウドリにバプテスマを施し、オリバーがジョセフにバプテスマを施すように指示を受けました。それから天の使者は、「自分の名はヨハネといい、……バプテスマのヨハネと呼ばれている者で、自分はメルキゼデクの神権の鍵を持つペテロとヤコブとヨハネの指示の下に働いていると言われた。また、ふさわしいときにメルキゼデクの神権も〔ジョセフとオリバー〕に授けられ……る、と言われ」ました（ジョセフ・スミス—歴史1：72）。

皆さんは、悔い改めを叫び、バプテスマを施し、**聖餐**



を管理し、監督を助け、特別な励ましを必要とする人々に関心を持つ、この同じ聖なる権能を持っているのです。

わたしの父は監督でしたが、わたしが神権を受ける前に死にました。わたしは執事に聖任されたときのことははっきりと覚えています。そのとき、新しい世界がわたしの前に開かれたように思いました。より高い霊的レベルに到達したという気持ちでした。人々が「あなたは神権を持っている」と言うのを聞いても、そのことについて完全に理解するのは容易なことではありませんでした。しかし、謙遜な指導者たちのおかげで、わたしたちは執事として、神聖な事柄を行う権能と祝福を与えられていることを知るようになりました。

定員会役員として、わたしたちは、定員会の会員の世話をしたり、みんなが教会に来られるようにいろいろ手配したりしました。一緒に集まって活動するのは楽しみでした。お年寄りや夫に先立たれた女性を助け、集会所を掃除し、庭を掃きました。また、聖餐のトレーとクロスがいつもきれいで清潔であるようにしました。わたしたちは教会の一部であり、教会はわたしたちの一部でした。わたしたちはそのことを知っていましたし、実感していました。わたしたちは神の神権を持っていたのです。理解ある教師たちはわたしたちが青少年として視野を広め、常に進歩できるように、いろいろな面で助けてくれました。とりわけ大切なのは、この若い時期に、よく準備して救い主の僕として召されるよう助けてくれたことでしょう。主は、神権を持つ皆さんたち若人一人一人を必要としていらっしゃいます。

実際、皆さんの年代の若人は、これまでに数多くの不思議な方法で働いてきました。イエスはわずか12歳のときに宮の中で教を説き、教師たちを驚かせました。ダビデは羊飼いの少年でしたが、主に対する完全な信仰を持って、戦場でペリシテ人の巨人ゴリアテと戦いました。ジョセフ・スミスは14歳のとき、ヤコブの手紙の中から「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、……神に、願ひ求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」(ヤコブの手紙1:5)という言葉を読みました。後にジョセフはこう言っています。

「この聖句が、……かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであった。……それはわたしの心の隅々に大きな力が入り込んで来るように思われた。……」

わたしは……人目を避けて森に入って行った。……

わたしは……ひざまずいて、心の願ひを神に告げ始めた。」(ジョセフ・スミスー歴史1:12, 14-15)

父なる神と御子が少年ジョセフに御姿を現され、イエス・キリストの教会を回復に導いた大いなる出来事は、こうして始まったのです。

アロン神権者として、皆さんはチームの一員です。ちょうどわたしが高校のフットボールチームの一員だったようにです。しかし皆さんには、わたしのチームにはなかったすばらしい保証が与えられています。皆さんは主の側にあり、主が敗者となられることはあり得ないということです。主に従うなら、主は皆さんが力強い僕へと成長できるように助けてくださいます。

どんなチームでもそうですが、皆さんにも従わねばならないルールがあります。有害な薬物やお酒を用いて皆さんを迷わせようとする人々の誘惑と圧力に打ち勝ってください。それらが、あなたの身も霊も死に至らせるものであるということは、皆さんもよく知っているはずで、屈服してはなりません。皆さんは、世の人々とは異なっているのです。ポルノグラフィ、汚らわしい書物や映画、下品な言葉、扇情的な音楽を生活の中に持ち込まないようにしましょう。それらはあなたを破壊してしまうものだからです。

皆さんの思い出がこれからの生涯に祝福をもたらすような、そんな生き方をしてください。永遠の幸福と喜びのために聖なる神殿に参入する栄えある日を待ち望んで生活してください。真の満足感を得られる日まで待つことのできる強さを養ってください。すべてのことには時と季節があり、神の永遠の計画の一部として成熟の過程があるということを理解していただきたいと思います。真の価値観と福音の真理は、時を超えて永遠に存在するものであるということを忘れないでください。自分の人格を築くことができるのは本人だけです。また、自分の人格を傷つけることができるのも本人だけです。

人生は、ほかの人とではなく、自分自身との競争です。わたしたちはより強く、より良く、より真実に生きるよう、日々努めるべきです。毎日、昨日の弱さを克服し、毎日、間違いを正し、毎日自分自身をしのぐようにしなければなりません。

愛する若人の皆さん、わたしたちの未来の多くが皆さんにかかっています。皆さんは弱い者でなく、強い者となるよう求められています。わたしたちは皆さんを信頼しています。皆さんの受けているチャレンジを理解しています。皆さんが生ける神について証するとき、暗闇の世界にかがり火を高く掲げることができるのです。今から始め、自分自身を備えてください。皆さんは、確かに必要とされているのですから。□



「キリストの言葉をよく味わう」

七十人

スペンサー・J・コンディー

ニーファイはその神聖な記録を結ぶに当たり、次のような、奥の深い、すばらしい約束をしています。「キリストの言葉をよく味わう」なら、「キリストの言葉は〔わたしたち〕がなすべきことをすべて告げる。」（2ニーファイ32：3）これは非常に大胆な約束です。ほんとうにわたしたちはすべてのことについて、神の導きを受けることができるのでしょうか。

『モルモン書』のいちばん初めの章で、ニーファイは父リーハイが示現を見たことについて言及しています。その示現の中でリーハイは天使から1冊の神聖な書物を渡され、「その書物を読むと……主の御霊に満たされ」ました（1ニーファイ1：12、下線付加）。

「キリストの言葉をよく味わう」なら、「キリストの言葉は〔わたしたち〕がなすべきことをすべて告げる。」

個人的にであれ、家族としてであれ、熱心に聖文を読む人は、主の御霊でその心と思いが満たされます。そしてこの御霊によって、わたしたちは標準聖典の中に、求める導きを確かに見いだすことができるのです。

ニーファイの約束を実際に検証し、4つのありがちな問題の解決にキリストの言葉がどう役立つかを見ていきたいと思います。

1. わたしは自分にのしかかる重圧で打ちひしがれそうに感じるのが時としてあります。人生の中で、このような多くの苦しみを受けなければならないのはなぜでしょうか。

この世に生を受ける人はだれでも苦しみを味わわなければなりません。聖文を調べれば、苦しみにはどういう意味があるか知ることができます。また様々な苦境に直面しても、決して何の助けもない状態に打ち捨てられているのではないという確信を見いだすこと

ができます。

ニーファイ第二書第2章11節には、「すべての事物には反対のものがなければならぬ」と書かれています。

その前後を読むと、これはリーハイが、息子のヤコブに救いの計画について教えた言葉の一部であることが分かります。救いの計画には選択の自由、すなわち「思いのままに行動することができ、強いられること」（2ニーファイ2：26）のない状態が不可欠です。苦しみも「偉大な幸福の計画」（アルマ42：8）の一部として必要なものです。もし反対のものがなければ「義は生じ得ないし、邪悪も、聖さも惨めな状態も、善も悪も生じ得ない」（2ニーファイ2：11）からです。

逆境は、選択の自由を行使する機会をもたらします。わたしたちがその機会を賢明に用いるならば、主はわたしたちを清め、最終的には救いを与えてくださいます。預言者ジョセフ・スミ

スはリバティーの監獄に投獄されていたときに、いつまで迫害と苦しみに耐えなければならないのか、主に尋ねました。それに対して主は次のようにお答えになりました。「息子よ、あなた

の心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げる

であろう。」(教義と聖約121:7-8)

確かに苦しみはこの世の生活の一部として必要なものですが、わたしたちはそれを自分一人の力だけで耐えなければならないわけではありません。

『モルモン書』を読むと、アルマからバプテスマを受け、その後ひどい苦しみを受けた人々に与えられた主の約束が書かれています。

「『あなたがたの頭を上げて喜びなさい。わたしは、あなたがたがわたしと交わした聖約を知っている。……

またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、……あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。……』

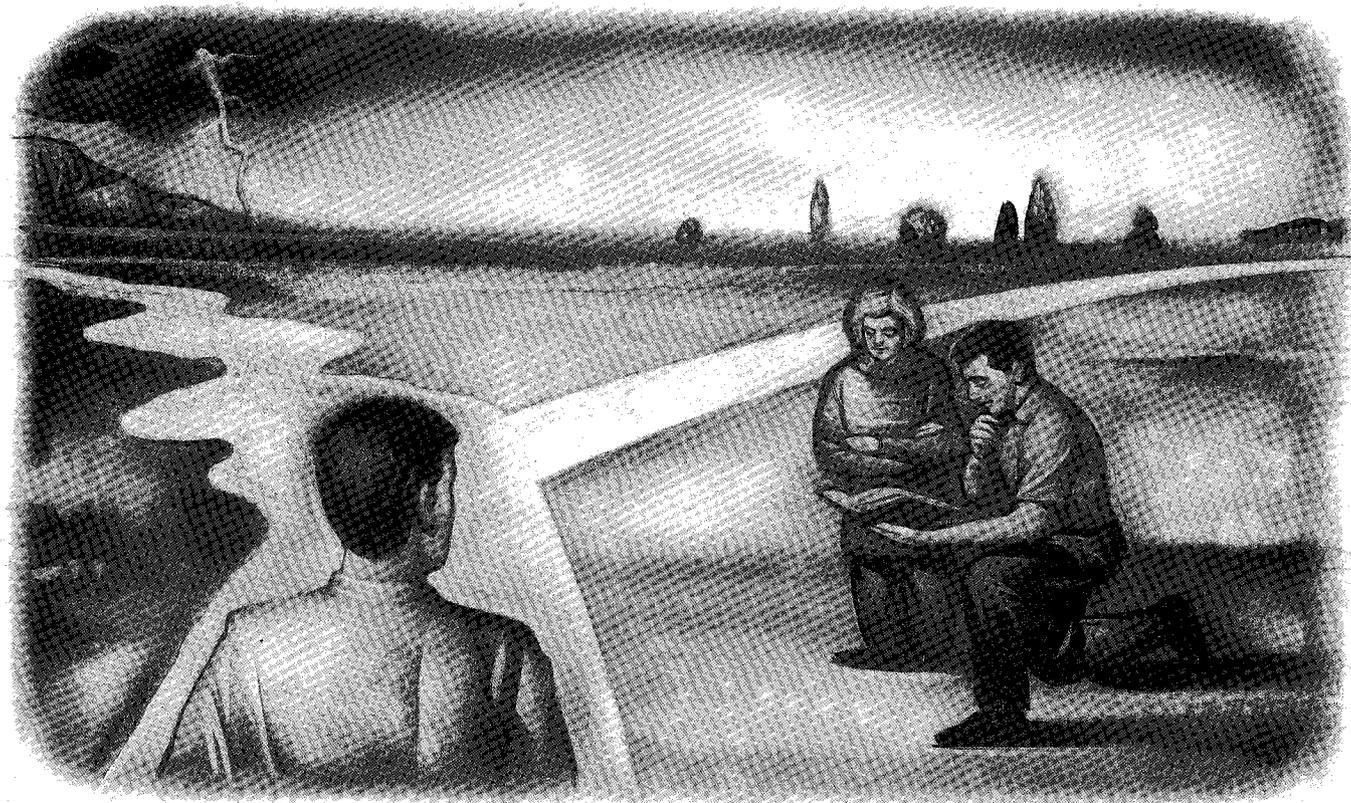
そこでアルマと彼の同胞^{ほらから}に負わされた重荷は軽くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心^{みこころ}楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。」(モーサヤ24:13-15)

主はわたしたちが試しの時期にあるとき、捨てて孤児にするようなことはなさいません(ヨハネ14:18参照)。

2. わたしたちの子供の一人が教会から足を遠ざけ始めています。子供を連れ戻すには何をしたらよいで

この世に生を受ける人はだれでも苦しみを味わわなければなりません。しかしわたしたちはそれを自分一人の力だけで耐えなければならないわけではありません。主は「あなたがたの肩に負わされる荷を軽く」とすると約束されました。





しょうか。

確かにこれは多くの人が直面している非常に難しい問題の一つです。この問題についてもキリストの言葉の中に導きを見いだすことができます。教義と聖約第121章の中には、自分の監督下にある人が過ちを犯した場合には、優しく、ただし明確に、また手遅れにならないうちに、それを正す必要があると教えられています。そしていっそうの愛を示すように求められています。41節から44節には次のように書かれています。「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。

聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。

それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、その人が知るためである。」

「そのときに」という言葉は「遅くならないうちに」という意味です。「厳しく」という言葉については様々な解釈があります。その一つに「明確に」という意味があります。つまり、責めるときに、問題となっている事柄に焦点を合わせるなら、その時点での行いがたとえ受け入れられないものであるにせよ、相手に対して、なお愛され、大切に思われているのだという気持ちを抱かせることができるのです。

愛を伴った叱責のすばらしい模範が、アルマが不従順な息子コリアントンに与えた勧告の中に示されています（アルマ39-42章参照）。アルマは力強く、また分かりやすく教を説いた後に、愛を込めて息子を叱責し、「これらのことに思い悩まされることなく、ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるように」と勧告しています（アルマ42：29）。

皆さんは、アルマ自身も若いときに、

自分の監督下にある人が過ちを犯した場合には、優しくそれを正すとともに、いっそうの愛を示す必要があります。

父親の祈りにこたえた天使の現れを受けるまで、不従順な生活をしていたことを思い出すことでしょうか（モーサヤ27：14参照）。救い主は祈りがもたらす力についてニーファイ人に教えられたときに、「与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる」と約束されました（3ニーファイ18：20）。聖文には、祈りが実際に力をもたらすということが、何度も繰り返して教えられています。

3. わたしはある人からひどく心を傷つけられました。あの人を赦すのは容易なことではありません。わたしはどうしたらよいのでしょうか。

主は御自身に裁く権能のあることを明らかにしておられます。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべて

の人を赦すことが求められる。」(教義と聖約64:10)

これは非常に高い標準です。あまりにひどい仕打ちを受け、自分を傷つけた人を赦すのは非常に困難な場合があ

ります。『モルモン書』には、人を赦すための霊的な力を得るにはどうしたらよいか説かれています。「慈愛は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず、自分の利益を求めず、容易に

怒らず、悪事を少しも考えず、罪悪を喜ばないで真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。……

慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ7:45, 47, 48, 下線付加)

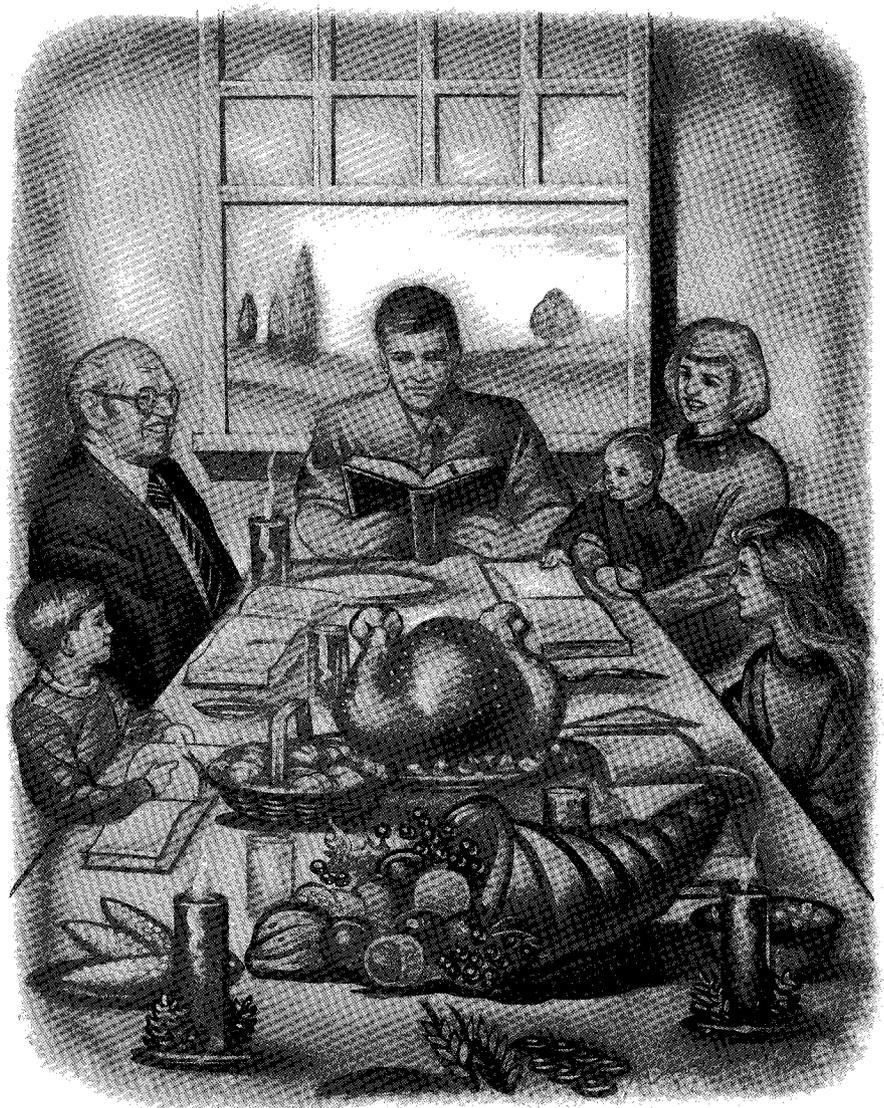
人を赦す力も含めて、愛は神からの賜物です。心を込めた熱心な祈りは、この賜物を受けるよう、心を開いてくれます。

4. 自分の罪が赦されたことはどうしたら分かるでしょうか。

モーサヤ書第4章と第5章の中でベニヤミン王は、罪が赦されたことを示す幾つかのしるしについて話しています。ベニヤミン王はその前に人々に力強い説教をしました。それを聞いた人々は心を和らげ、自分たちがこの世的な状態にあることを認め、キリストの贖いの血によって再び清められるようにと祈りました。祈りの言葉を終え

あまりにひどい仕打ちを受け、自分を傷つけた人を赦すのが非常に困難な場合があります。人を赦す力も含めて、愛は神からの賜物です。心を込めた熱心な祈りは、この賜物を受けるよう、心を開いてくれます。





ると。「彼らは、罪の赦しを受け、良心の安らぎを得」ました。(モーサヤ4:3)。

喜びを感じるの正しい道に戻る過程にあることの一つのしるしです。アルマは「悪事は決して幸福を生じたことがない」と教えています(アルマ41:10)。喜びと悲しみを同時に感じるという事はあり得ません。ですから、心が喜びで満たされるということは、悪い行いを克服する過程にあることのしるしと考えるとよいのです。

ベニヤミン王の民が罪の赦しを受けたことを示す二つ目のしるしは、彼らが良心の安らぎを受けた点です(モーサヤ4:3参照)。自分の罪をすべて忘れることはないにしても、心から悔い改めるなら、安らかな良心をもってそれを思い起こし、「二度と罪を思い出して苦しむことがなくな」るのです(アルマ36:19)。

3番目は、悔い改めると、神の愛で満たされるというしるしです(モーサヤ4:12参照)。愛で満たされた心はそれだけでいっぱいになり、憎しみ、復讐心、落胆、恐れなどが入り込む余地がありません。

4番目に、わたしたちは「互いに傷つけ合う心を持た」なくなり、子供たちが「互いに戦うのも、争い合うのもほうってはおこな」くなります(13-14節)。

5番目のしるしは、助けを必要としている人に自分の持ち物を与えるようになるということです(16-21節参照)。救い主は人々の重荷を軽くされました。わたしたちもそれと同じ行い

をする強い望みを持つようになることでしょう。

そして、真の悔い改めを示す6番目のしるしは、「悪を行う性癖をもう二度と持つこと」がなくなることです(モーサヤ5:2)。

聖文は洞察力と神の勧告を与えてくれる文字どおりのごちそうです。何度もその食卓に着いて、御言葉をよく味わいましょう。そうするならば、聖なる御霊がわたしたちの生活をすべてにわたって満たし、「神の善い言葉で養われ……正しい道にとど」まる助けとなることでしょう(モロナイ6:4)。

救い主は自分自身の言葉について次のように宣言されました。「これらの言葉は人々から、人間から出ているの

聖文は洞察力と神の勧告を与えてくれる文字どおりのごちそうです。何度もその食卓に着いて、御言葉をよく味わいましょう。そうするならば、聖なる御霊がわたしたちの生活をすべてにわたって満たし、「神の善い言葉で養われ」ることでしょう。

ではなく、わたしから出ているのである。……

これらの言葉をあなたがたに語っているのは、わたしの声である。……

そのために、あなたがたは、わたしの声を聞いたこと、そしてわたしの言葉を知っていることを証できるのである。」(教義と聖約18:34-36) □

怒りを静める

ダリン・リスゴー

腹が立って今にも爆発しそうになることはありませんか。それはしょっちゅうですか。怒りは好ましくない感情です。心にも肉体にも良い影響は与えません。以下の助言に従うなら、怒りを静め、平静さを失わず、友情を維持していくのがもっとたやすくなることでしょう。

気持ちをすぐに切り替える

怒りが込み上げてきたとき、ほかのことに気持ちを向けるとよい場合があります。以下の方法を試してみてください。

■10まで数える。それがだめなら、100から1まで逆に数える。それでもだめなら、20まで外国語で数える。気持ちの切り替えに必要なだけ数えることです。

■散歩に出かける。いろいろな原因が何であれ、場所を変えることで気持ちも変えやすくなります。

■精神を高揚させる本を読む。聖文を読むのはとても効果的です。

■心を和ませる音楽を聞く。「音楽は野獣をなだめる」ということわざがあります。怒っている人は野獣のようなものですから、効き目はあります。

■賛美歌を歌う。静かにハミングす

るだけでもよいでしょう。

■ゴムボールを何か壊れない小さな物を握り締める。

■どんな状況にあってもユーモアの精神を忘れない。この方法は、あなたが思っているほど難しくはないはずです。

■物事を前向きにとらえる。ひょっとしてこの経験から何か学べないだろうかと考える。

■平静でいることをテーマとした聖句や好きな引用文を思い起こす。

■バスケットボールをしたり、走ったり、サッカーボールをけったりして怒りを発散させる。

■何度か深呼吸をし、よく考えてから発言する。怒りに任せて口を開けば、やがて後悔することになるでしょう。

■「自分の間違いということもあるのでは」と自問する。むかむかする原因になっているのが自分ということはないでしょうか。状況把握は十分でしょうか。第三者が関与していて、真相に確信を持ってないときには、いつもよい方にとらえることにしましょう。

■だれかに自分の思いを打ち明ける。自分の気持ちを伝えれば、友達からよいアドバイスを受れたり、少なくとも別の見方を学んだりすることができず。

■この状況に対して、キリストならどう対応されるか考える。

■祈りをささげる。心にゆとりを持って正しいことができるよう天父に助けを願い求めましょう。

避けるべきこと

対応の仕方によっては、そのときにはもっともだと思えても、結局は事態を悪化させてしまう場合があります。ですから何をするにも、次の事柄を覚えておいてください。

■主の名をみだりに口にしない。

■いらいらするからといって周囲の人やペット、あるいは壊れやすい物に八つ当たりをしない。

■復讐しようとする。

■怒る度に食べ過ぎたり買い物に出かけたりするといった悪習慣に身を染めない。

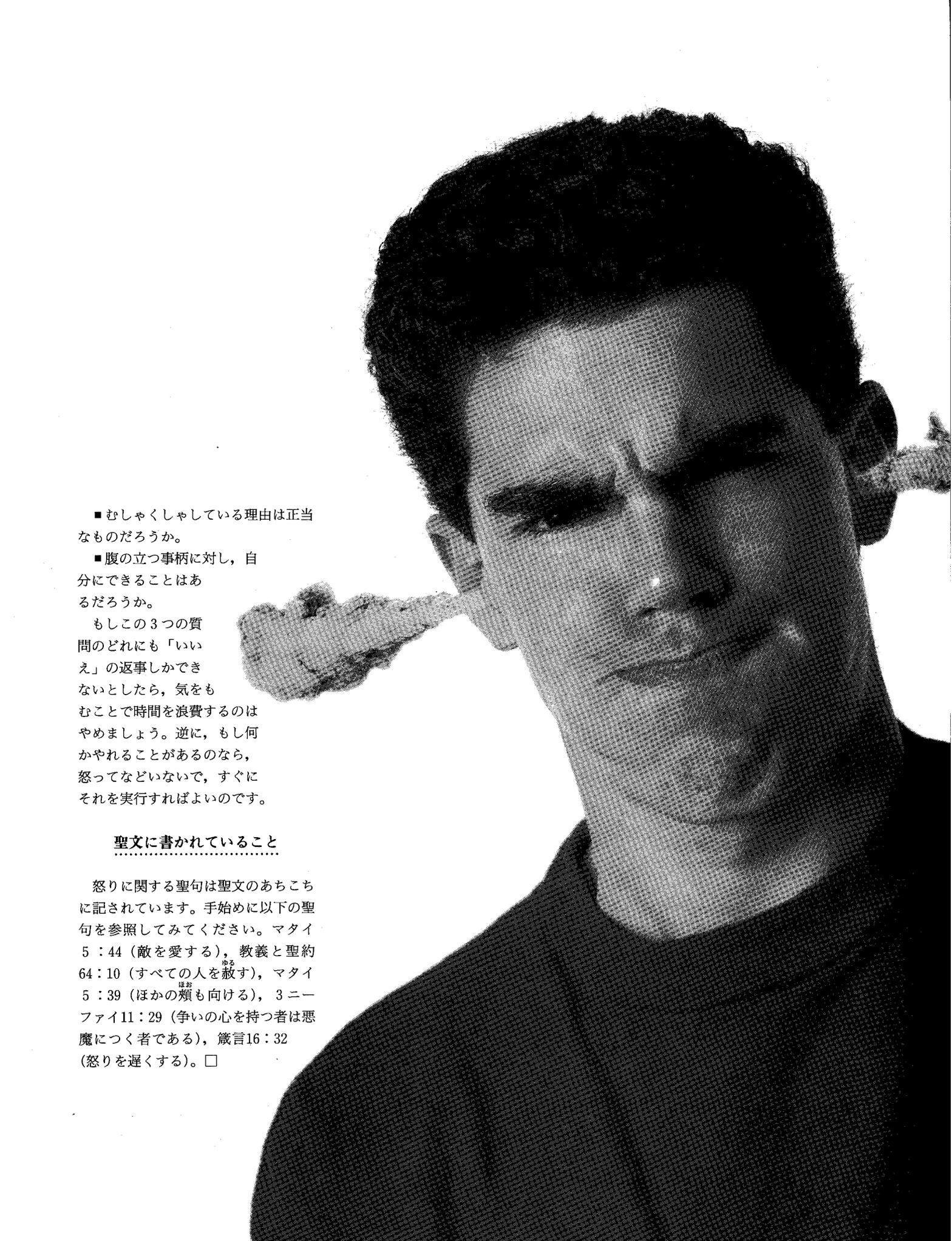
■根に持たない。

■黙り込んでしまわない。

役立つ3つの質問

腹が立ったときに次の3つの事柄を自問してみてください。

■その怒りの対象には、怒りを抱き続けるだけの価値があるだろうか。



■ むしゃくしゃしている理由は正当なものだろうか。

■ 腹の立つ事柄に対し、自分にできることはあるだろうか。

もしこの3つの質問のどれにも「いいえ」の返事しかできないとしたら、気をもむことで時間を浪費するのはやめましょう。逆に、もし何かやれることがあるのなら、怒ってなどいないで、すぐにそれを実行すればよいのです。

..... 聖文に書かれていること

怒りに関する聖句は聖文のあちこちに記されています。手始めに以下の聖句を参照してみてください。マタイ5:44 (敵を愛する)、教義と聖約64:10 (すべての人を赦す)、マタイ5:39 (ほかの頬も向ける)、3ネーファイ11:29 (争いの心を持つ者は悪魔につく者である)、箴言16:32 (怒りを遅くする)。□

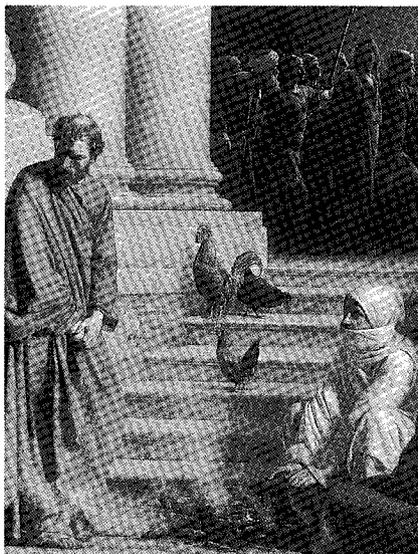
「大いなる癒しの力」^{いや}

「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(1ペテロ5:7)

救い主がこの世の生涯を閉じようとしていたとき、救い主の先任使徒は主を知っていることさえ否認しました。救い主はそんなペテロを非難なさることもできたはずですが、そうはされませんでした (ルカ22:55-62 参照)。その後、ペテロは深い信仰と固い決意で主の期待にこたえ、ついには主の教会を管理する者となりました。またキリストは、残酷な十字架の刑を行ったローマ人たちが非難なさることもできました。しかし、十字架の上で、苦痛にさいなまれながらも、「彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ23:34)と言われ、十字架にかけた者たちをお赦しになりました。

救い主はわたしたちに 赦すように求めておられる

人を赦すことは時として難しいものです。特に、自分が深く傷ついたときはそうです。わたしたちを傷つけた人が悔い改め、さらに神がその罪をもう思い起こさないでくださるのに(教義と聖約58:42参照)、わたしたちがいつまでもその人を赦そうとしないという場合もあります。これは、傷つけられた者と悔い改めを要する者が家族同士のときは、特に当てはまります。しかし、ほかの人から傷を受けたことをいつまでも恨んでいると、わたしたちの霊が損なわれます。贖いの完全な祝福を経験することが妨げられるのです。確かに、わたしたちが人を赦そう



としない場合には、もっと大きな罪を犯すことになるのです (教義と聖約64:9-10参照)。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように述べています。「キリストは大いなる癒しの力を持っておられます。そして、……もしわたしたちが主の真の僕になろうとするならば、その癒しの力をほかの人のために行使するだけではなく、恐らくもっと重要なことには、自分自身のために行使する必要があります。」(Faith: The Essence of True Religion 『信仰——真の宗教の核心』, p.35) イエス・キリストへの真の信仰があれば、わたしたちに対してなされた罪を主の贖いの力にゆだねることができるのです。

赦しのすばらしい模範が教会歴史の中に見られます。W・W・フェルプスは預言者ジョセフ・スミスの親しい友人であり、福音のために多くの犠牲を払った人物です。ところが、ミズーリにおいて、預言者と教会に逆らいました。1838年に彼が偽りの証言をしたために、預言者をはじめ教会の指導者たちが投獄され、何か月もの間大きな苦難に遭遇することになりました。

1840年になると、W・W・フェルプ

スは自分の罪を認め、ジョセフ・スミスに赦しを嘆願しました。すると預言者はこう答えました。「確かにわたしたちはあなたの行為のために随分苦しみました。……しかし、……わたしたちはまだ生きています。それを主に感謝しています。……あなたの告白が真実であり、あなたの悔い改めが真心からのものであると信じ、喜んであなたを教会員として再び歓迎します。教会へ戻って来てくれたことをともに喜びたいと思います。……さあ、兄弟、こちらに来てください。いさかきの時は過ぎ去りました。かつての友達が、再び友達になったのですから。」(History of the Church 『教会歴史』 4:163-164)

赦しは人を癒す

報復を求めず人を赦すことによって、社会を分裂させる争いの心を癒すことができます。

同様に大切なことは、人を赦すと、わたしたち自身の傷が癒え始めます。わたしたちが救い主に信仰を持ち、自分に苦痛を与えた相手を赦すとき、贖いの力によってわたしたちの傷ついた心が癒され、悲しみの重荷が軽くなり、家族や隣人、そして自分自身の心に平安がもたらされるのです。

使徒パウロはこのように喚起しています。「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」(エペソ4:32)

●寛大な心と赦しの精神をさらにはぐくむにはどうしたらよいでしょうか。

●わたしたちに対して間違ったことをした人のために祈ると、どのような平安がもたらされるでしょうか。



ゆっくりと、しかし着実に

語り合い、祈る度ごとに、聖文を1ページ読むごとに、
証^{あかし}を得ることができました。

サンティアゴ・マルケス・ペレス

ILLUSTRATED BY LARRY WINBORG

先輩同僚とわたしは、いつもたっぷり時間をかけてホームティーチングをしていました。訪問をした後、同僚はウルグアイのカラスコのどこにでもある木陰の静かな通りに車を止め、少年時代の思い出や母子家庭で育った苦労話をしてくれたものでした。そして、少年時代の話になると、決まっていつも若いころ伝道に出た話をするのでした。伝道の経験について話すときは、とても熱のこもった口調になりました。

それは1968年のことです。実はその同僚とは、当時の

ウルグアイ・パラグアイ伝道部の部長、ウィリアム・N・ジョーンズ兄弟だったのです。

ウルグアイに住む大勢のほかの若者たちと同様に、疑いに満ちた世にあって、わたしが進むべき道を探し求めていたことを、ジョーンズ部長は知っていたのでしょうか。国内の政治は緊迫した情勢にあり、わたしは周囲の政治的变化の中であって、「自分には一体何ができるだろうか」と困惑していました。

しかし、ユーカリの木陰で、その同僚はとても穏やか



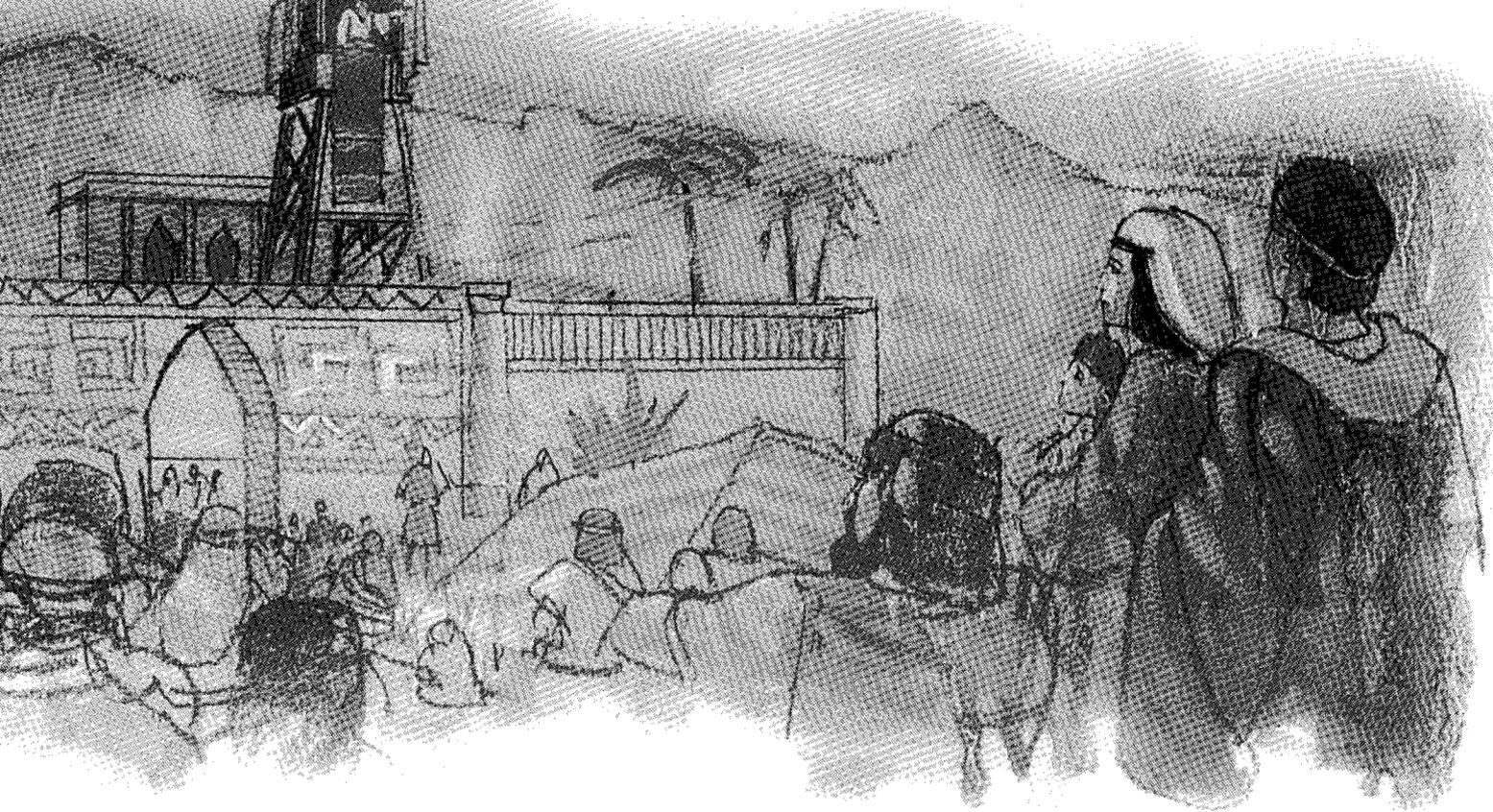


な力強い口調で語ってくれました。おかげで、少なくともそのときだけは、わたしの頭の中はすっきりとしていました。同僚は、わたしに人生の計画を立てるように、ごく自然な形で励ましを与えてくれました。また、教会で会ういつも温かくわたしを抱き締め、尋ねました。

「将来の宣教師さん、ご機嫌いかがですか。」

「宣教師って、ぼくのことですか」と心の中で答えたこともよくありました。そんなに先のことまで考えられなかったのです。『モルモン書』については、真実の書物であると信じていましたが、それはただ歴史的な理由からだけで、ほんとうの証あかしは持っていませんでした。ジョーンズ部長は『モルモン書』を読むように励ましてくれました。わたしの『モルモン書』に「あなたの内なる光がさらに大きな輝きを放ちますように」と、書いてくれたこともあります。しかし数か月たっても、輝きを放つその皮表紙の本は閉じられたままでした。

結局、迷いはありましたが、伝道に出ることに



決めました。いったん決心してしまうと、急に元気が出てきました。しかし、教会員ではない母親にそのことを話すと、賛成してはくれませんでした。とてもつらそうな表情で、「おまえはもうわたしの息子ではありません」と言い放ちました。

母親には反対されましたが、日曜日にはたいい平安な気持ちになり、カルバー監督と度々静かに二人きりで話をしました。ある日、監督は言いました。「ここに教会の鍵があります。空いている小さな部屋を見つけ、そこで主に近づく努力をしてみてください。」

それから毎日、わたしは監督の家に寄り、その鍵をもらいました。4時間か5時間、教会で『モルモン書』やそのほかの聖文を読みました。『モルモン書』についての証を得られるように断食もしました。

監督はわたしが断食していることを知り、その好機を逃さずに、肉体と霊が密接にかかわり合っていることについて教えてくれました。知恵の言葉の大切さを説明し、個人の啓示を受けるにはどうしたらよいかを教えてくださいました。わたしは監督の教えてくれたことを決して忘れないでしょう。

教会の教室で過ごした時間は、これからもわたしの人生にとってかけがえのない意味を持つことでしょう。証を得た日やその瞬間を特定することはできません。それがゆっくりとした過程だったからです。でも徐々に、『モルモン書』の一つ一つの話がわたし自身の霊の糧になっていきました。

よくわたしは、腰かけている冷たい金属のいすや、ひざまずいている床から飛び立ち、古代のニーファイ人やレーマン人の世界へ舞い降りたかのように感じることはありませんでした。ベニヤミン王の説教を読んでいるのではなく、実際にその場で聞いているような気がしたのです。草の上に座り、ニーファイ人の天幕に囲まれながら、年老いた指導者の話を聞きにやって来た人々を眺めました。ベニヤミン王の話は、政府の役割、良い指導者、個人の価値、真の奉仕の意味について、わたしが長い間疑問に思っていた大部分の事柄に答えを与えてくれました。

昔からわたしは、モロナイの約束は成就されると信じていました。ただ、ほかの人の場合のように、それが突然起きるのではないかと期待していたのです。しかし、徐々に得られた証ではありませんでしたが、それは力強いものでした。とうとう、わたしにも分かったのです。

教会員の愛と、そしてもちろん家族の愛に見守られながら、わたしは伝道地に向かいました。家族はわたしのしていることを十分に理解してはいませんでしたが、ほとんど全員が、「何か善いことをしようとしているんだ」と思ってくれていました。

チャレンジに満ちた時期を過ごせたことに対し、わたしは心から主に感謝しています。主イエス・キリストの代理人となれた機会にも、深く感謝しています。伝道中、主と『モルモン書』について度々証しました。その証は、語り合い、祈る度ごとに、また聖文を1ページ読むごとに、ゆっくりと、しかし着実に強くなっていったのです。□

御^み霊^{たま}を感じる

「今まで自分は御霊を感じたことがあったのだろうか。」その答えはまるで平和の象徴である鳩のように、わたしの心に舞い降りて来ました。

アーロン・リー・シル

PHOTOGRAPH BY STEVE BUNDERSON

「**や**れやれ、伝道まであと3か月というのに、御霊を感じるにはどうすればいいかさえ分からないなんて……。」

生まれたときからずっと教会員として過ごしてきたわたしですが、「御霊を感じている」と確信した経験をまったく思い起こせませんでした。救い主や預言者に対する強い証^{あかし}はあるものの、御霊を感じるとはどんなものか分からなかったのです。

ドゥラント兄弟の伝道準備クラスに出席しながら、相変わらず悩んでいました。「御霊に頼る」というベンソン大管長の言葉を引用した後、ドゥラント兄弟は、アルマやアンモンのような偉大な宣教師たちが御霊に従うことにより伝道に成功した話を始めました。

「こんなことで、どうやって立派な宣教師になれるだろう。御霊が何かさえ分からないというのに。」ドゥラント兄弟の話真剣に聞きながらも、彼がこの疑問に答えてくれないだろうかと心から願いました。「御霊を感じるとはどういうことなのか」について、一言でいいですから、何か知恵ある大切な言葉を言ってくれますようにと、心の中で祈りました。

答えを受けたのはそのときです。しかし教師が教えてくれたものではありませんでした。それは電撃のような感覚でもなく、火のような感覚でもありませんでしたが、確かに答えは訪れたのです。それは主だけがお与えになれる、穏やかな気持ちを通して与えられました。ちょうど、教師がアルマについての話をやめて、静かにこう言ったときでした。「わたしはよく御霊を感じます。御

霊を感じるととても幸福な気持ちになります。幸福だと感じ、神に愛されていると実感するとき、自分が御霊を感じているのが分かります」と。

ドゥラント兄弟のこれらの言葉について思い巡らしていると、今まで霧が立ち込めていたわたしの頭に、急に理解の光が射してきました。胸の内が炎のように燃えて高鳴ったわけでもなく、体中の力を失ったわけでもありません。むしろ静かで穏やかな気持ちでした。そして、教会の集会で賛美歌を歌うときに感じる温かい気持ち、それが御霊だったのだと気づきました。奉仕活動の後に感じるよい気持ち、それも御霊でした。レッスンを受けて教室を後にするときの平安で幸福な気持ち、それも御霊だったのです。ずっと探し求めていたこの気持ちは、いつもすぐそばにあったものでした。しかし、それが何なのか気づかなかっただけなのです。わたしは主が奇跡的な方法で即座に証を与えてくださることを期待していましたが、主は、わたしが自分で見いだせるように優しく導いてくださったのです。

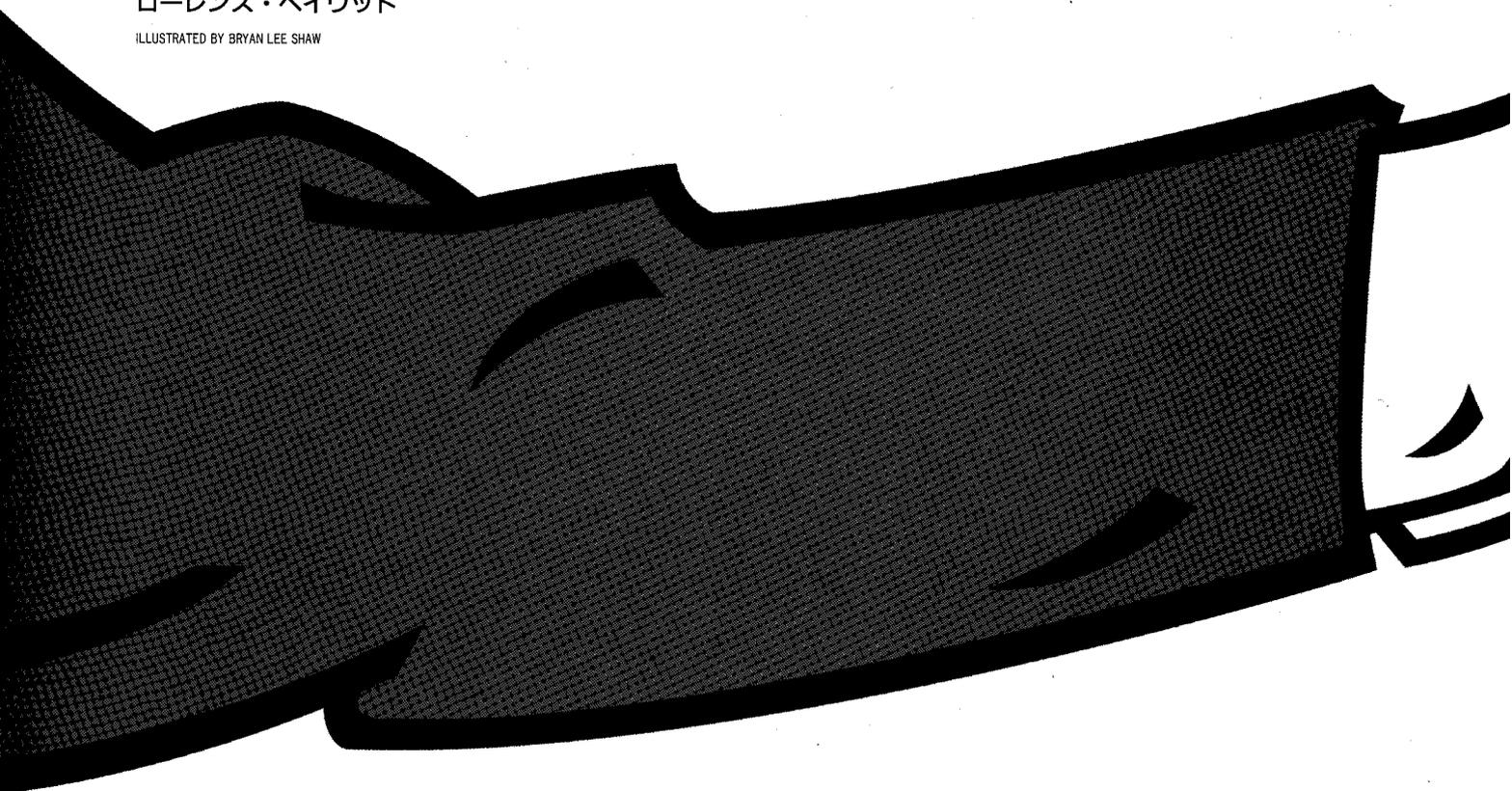
またわたしは、御霊について理解を深め、その影響を生活に取り入れられるよう努力していかねばならぬことを学びました。アルマの息子のアルマやラモーナイ王の話に疑いを抱いてはいません。御霊が劇的な方法で彼らに影響を与えたことは信じています。しかし、御霊がいろいろな方法で影響を与えることも分かったので。ふさわしく生活しようと努め、熱心に求めるかぎり、わたしはいつも御霊を身近に感じられることでしょう。

□

君がいるから

ローレンス・ヘイウッド

ILLUSTRATED BY BRYAN LEE SHAW



「この人は一体だれなんだろう。なぜここにいるんだろう。どうしてわたしの名前を知っているんだろう。」

教会の外で集会の始まりを待っていると、ある男性がこちらに歩み寄って来て、わたしの名を呼んでこう尋ねたのです。「ぼくがなぜここに来たのか分かりますか。」

いきなりこう聞かれてわたしは驚きました。「この人は一体だれなんだろう。」見覚えがあるような顔でしたが、心当たりはまったくありませんでした。ましてや、彼がここに来た理由など知るわけがありません。何か気まずさを感じながら「分かりません」と答えました。

「君がいるからぼくは教会に来たんですよ。」彼は照れる様子もなく率直にそう言ったのです。

そう言われてわたしは改めて考えてみました。しかし、かすかに知っているような気がするものの、やはり以前どこかで会った記憶などありませんでした。この男性がだれなのかまったく分からないというのに、彼は目の前に立って、「君がいるからぼくは教会に来た」と言っているのです。

納得できないでいるわたしの様子に気づいて彼はこう説明しました。「ぼくは、大学の体育の授業で君と一緒にのクラスなんです。いつも君のことを見ていました。」

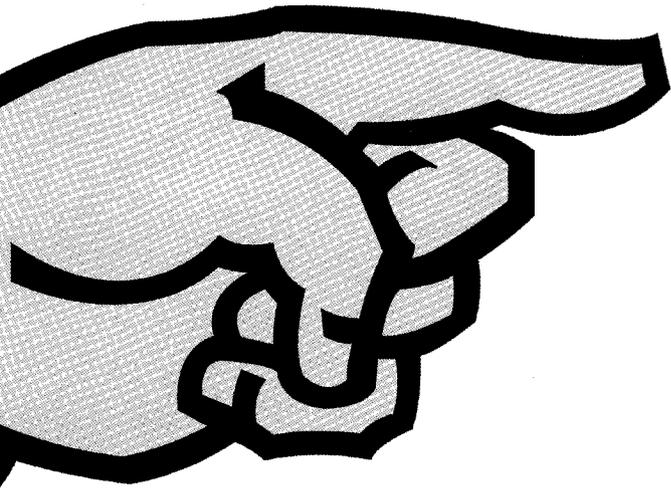
わたしのことを見ていただって。それは一体どういう意味なんだろう。

彼はこう続けました。「君がほかの人とは違っていることに、ぼくはすぐに気づきました。下品な言葉遣いはしないし、怒りっぽくもない。たばこは吸わないし、品のない冗談を口にすることも、そんな会話に耳を貸すこともない。周りの人たちが低俗な話をしても決して加わらない。ぼくは心か

ら君を尊敬するようになりました。君はまさしく、ぼくがなりたいと思うとおりの人だったんです。そこでぼくは、周りのみんなに君のことをいろいろ尋ねてみました。君の名前から始まって、君がモルモンだということ、そしてこの教会に通っているということも調べました。だからぼくはここへ来たんです。」

そのときのわたしの気持ちをどう書き表したらよいでしょうか。わたしはただ、いつも教えられているように生きようと努力してきただけでした。そしてその努力は、恐らくあまり自慢できるほどのものでもなかったと思います。わたしは伝道に出る準備はしていましたが、完璧ではありませんでした。それなのに彼はわたしをずっと見ていたと言うのです。少し心配になってきました。何かまずいことをしでかさないかたでしょうか。そうでないことを望みました。

彼は教会の集会に出席し、数週間に



わたって宣教師から福音について学び、その後バプテスマを受けました。そして1年後、わたしが伝道に出る少し前に彼も伝道へと旅立ちました。彼は宣教師としての召しを忠実に果たし、帰還した後、神殿で結婚しました。彼はほんとうに幸福そうでだれよりも温和な人物です。

彼を改宗に導いたのはわたしではありません。わたしはただ、いつも教えられている標準、そして自分が正しいと信じる規範に従って生活しようとしてきただけです。彼が見ていたものは、わたしではなくこれらの標準であり規範だったのです。

「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ5:16)という救い主の言葉を読む度に、見知らぬ人が近づいてきて、「君がいるから教会に来たんですよ」と言った日のことをいつも思い出します。□



フランス

ラリー・ガント

PHOTOGRAPHY BY DAVID AND LARENE GAUNT



フランス人の教会員が強められ、より豊かな信仰の収穫を刈り入れるに従い、イエス・キリストの福音は年を追うごとに徐々に広がりを見せています。

約 55万平方キロに及ぶ国土のほとんどは肥よくな黒土に覆われ、植物が豊かに成育しています。アルプスやピレネー山脈の谷間には野生の草花が、丘陵地帯には真っ赤なけしの花が咲き、野原にはラベンダーの香りが漂います。

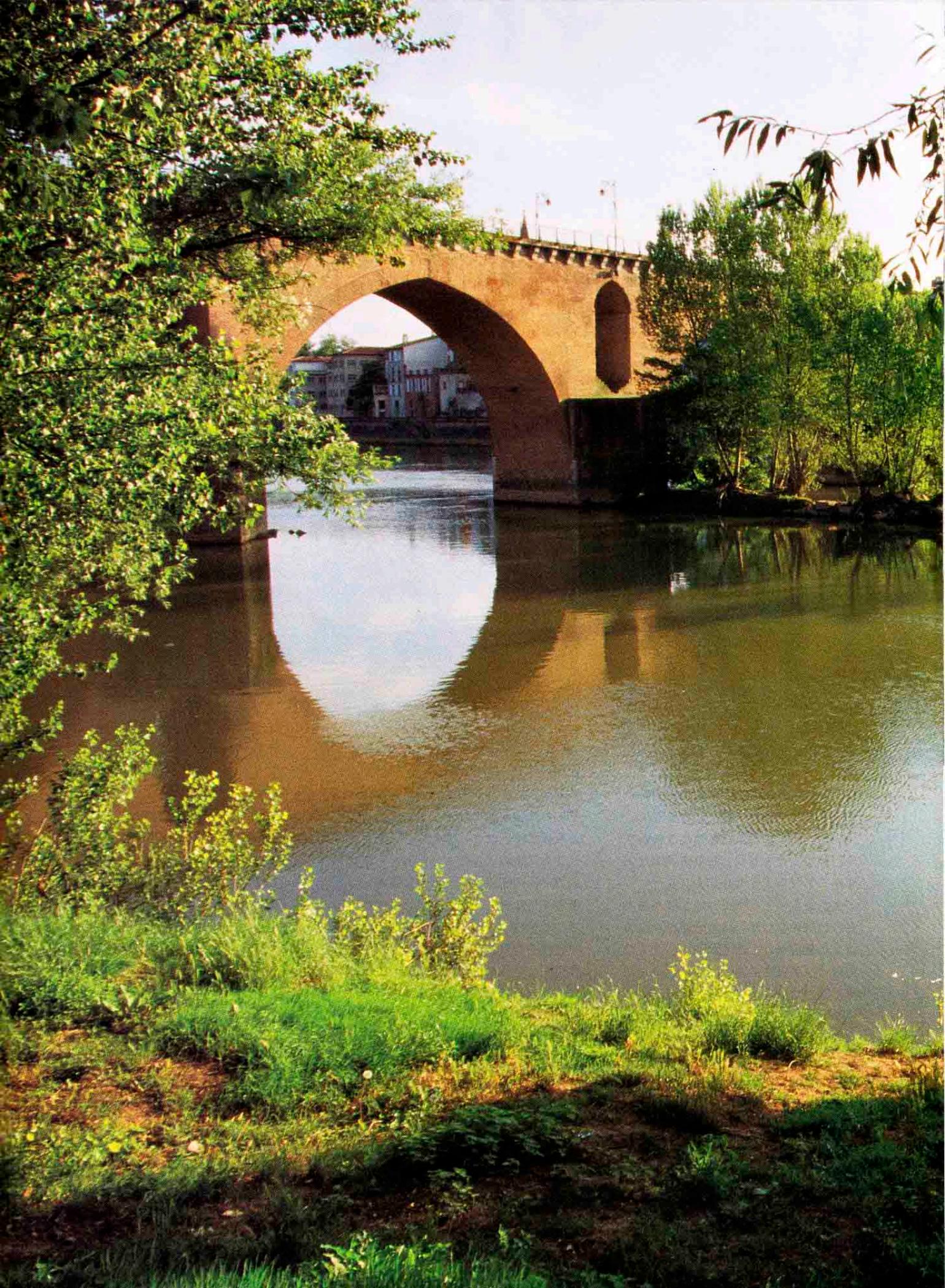
美しい庭園のようなこの国には約6,000万人が住んでいます。およそ20パーセントがパリに住み、そのほとんどはアパート住まいです。この国にはほかに、ノルマンディのつたの這う石造りの農家や、海辺にある漁村のコテージからリビエラの赤レンガの家、そしてアルプスのシャトー（大邸宅）まで、様々な種類の住居があります。また、フランスのあちこちの地方には何百年も前の城がまだ残っていて、紀元前200年にさかのぼるこの国の豊かな歴史を今に残しています。

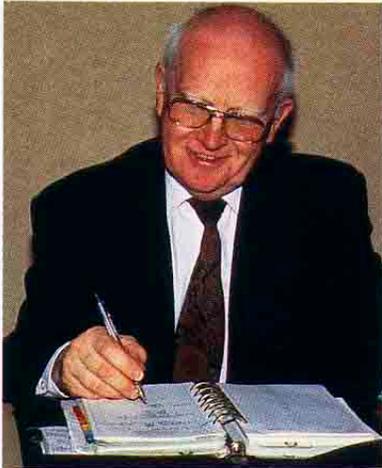
年ごとに花を咲かせる草花のように、教会員たちはこの地に積極的に福音を確立し、擁護しています。現在の指導者のほとんどが1960年代に改宗した人たちで、自分たちをモルモン1世と考えています。彼らは福音に深く根を下ろし、今やモルモン2世や3世たちが花を咲かせているのです。

ここに例を挙げる3人の1世の家族のつながりは、フランス全国に多く見られるものです。シモネ、バビン、そしてコセの3家族は、25年から30年前にそれぞれナンシ、パリ、そしてボルドーで教会に加入しました。それから1世代を経た今、彼らの影響は12以上の地域で見ることができます。

右ページ——曲がりくねった川と豊かな緑の国フランスは、まるで庭園のように美しい。下——フランス・ニースステーキ会長ジャンエメイ・デュランと奥さんのシャンテル。







1969年のある晩、ナンシのジャッキー・シモネが家に帰って来ると、奥さんのマリーが泣いていました。彼女のひざの上には教会のフランス語版機関誌『レトワール』が置かれていました。「永遠の結婚について読んでいたの」と彼女は小声で語りかけました。「あなたがバプテスマを受けないかぎり、わたしたちは決してこの祝福にあずかることができないのよ。」

それまでジャッキーは4年間奥さんと一緒に教会に集い、宣教師のレッスンも2回受けていました。「わたしはたばこを吸っていたのでバプテスマを受けなかったのです」と彼は言います。「その晩妻と話しているうちに、わたしは心を動かされました。そして、もうすでに福音が正しいと知っている自分に気づいたのです。わたしは妻を愛し、彼女と永遠にわたって一緒にいたいと心から望んでいました。すぐに、家にあつたたばこを投げ捨て、二度と吸うことはありませんでした。」ジャッキーはバプテスマを受け、シモネ家

族はその翌年スイス神殿で結び固めを受けました。彼は現在、フランス・ボルドーステークの会長を務めています。

シモネ兄弟姉妹は5人の息子とめいとおいを一人ずつ育て上げました。成人したこの7人の子供たちは、今、パリ、トワリー、ボルドー、アメリカに住んでいます。そして、ほとんど全員が3世代目の子供たちを福音の下で育てているのです。おいのクリスチャン・スーレはパリステークのステーク副会長に召されています。

1977年、シモネ兄弟はナンシで友人のフランシーヌ・バビンとその子供たちにバプテスマを施しました。彼女のご主人、ジャン・アルベールも、それから6か月後にバプテスマを受けています。バビン兄弟は、『「モルモン書」』を読んでいるときの妻は、太陽のように輝いて見えました。ふだん物静かな彼女が、宣教師から福音を学んだ後は、そのことしか頭にないように話し続けたのです。」

シモネ家の子供たちと同様、バビン家の5人の子供たちも教会に貢献するモルモン2世の力を示す良い例です。彼らはパリヤベルサイユ、マントラジョリーで子育てと、指導者としての務めを両立させています。

二つの活発な末日聖徒の家族の間に姻戚関係ができると、福音の基盤はさらに堅固なものとなります。バレリー・バビンは、ボルドー出身のモルモン2世、ジェラルド・コセと結婚しました。ジェラルドはフランス・パリステークのステーク副会長を務めています。彼の両親、ジャン・コセとマリー・コセは1963年にバプテスマを受けました。ジャン・コセはイーゼン

ワードの監督として奉仕しています。

このように、福音の影響は家族から家族へと広がり続けており、フランスの教会の至る所で深く親密なつながりを築きつつあります。

種まき

ジョン・テラー長老が1850年6月18日にフランスに最初の伝道部を組織して以来、多くの宣教師が福音の種をまいてきました。徐々にこの種は芽吹き、花を咲かせてきました。フランス伝道部は教会で6番目に組織された伝道部でしたが、政府の規制により57年もの間、閉鎖を余儀なくされました。その後二つの世界大戦が教会の成長を遅らせました。このような困難にもかかわらず、教会は生き延びてきました。

「第二次世界大戦が終わったとき、教会の信仰深い会員たちのほとんどは、独身で年配の女性たちでした」と、フランス・ボルドー伝道部のリチャード・M・オープンソン部長は言います。「彼女たちのほかにたくさんの人たちが改宗し、アメリカで教会初期の開拓者たちが経験したのと同じような犠牲を払いました。しかし、当時はまだ教会員がシオンに集合している時期だったので、彼らの多くはアメリカに移住したのです。」

フランスにとどまった聖徒たちの中に、ニースのルイ・ガストンと奥さんのマリーがいました。1950年、キリストの教会を探し求めていたルイは、地元の幾つかの教会の一つ一つ計画的に出席していました。しかし、彼に末日聖徒イエス・キリスト教会のことを教えたのは、市場で友人から教会のことを聞いてきた奥さんでした。「イエ



左ページ——フランス・ポルドーステーク会長ジャッキー・シモネ。上——ジャン・アルベール・バビン、フランシーヌ・バビン夫妻（中央）と5人の子供、そして11人の孫たち。末日聖徒の1世が福音にしっかりと根を下ろし、2世と3世がフランス中でその花を咲かせている。

ス・キリスト教会」という言葉を耳にしたとき、マリーの胸が高鳴りました。マリーがその言葉から教会の真実性を悟ったのは、「『イエス・キリストの教会』が必ずこの地上にあるはずだ」と言うルイの話のをそれまで何度も聞いてきたからかもしれません。

次の日曜日、ガストン家族は教会に出席しました。集会所は建物の小さな一室でした。出席していたのは、ガストン家族のほかには宣教師たちと二人の教会員でした。教会員が一人ずつ救い主について証するのを聞いたルイは感動しました。集会が終わってから、ルイは集会の開かれた建物の前の歩道に立ち、強い確信をもって家族にこう言いました。「これこそイエス・キリス

トのまことの教会だ。」

1950年12月22日、ガストン家族は全員ニースにあるトルコ式の浴場でバプテスマを受けました。8か月後、ルイは長老に聖任され、1951年の秋には支部長として奉仕するように召されました。計量器の修理店を営んでいたルイは、店に来る人全員に福音について話して聞かせました。マリーは、年老いて身寄りのない人や病人の世話をしました。彼女の奉仕と愛に満ちた人柄も、福音を広める助けになりました。2年もたたないうちに、ニースのその支部には100人以上の人々が出席するようになっていたのです。

1955年にスイス神殿が、そして1958年にロンドン神殿が奉獻されると、改



宗者の多くはアメリカに移住せずにフランスにとどまるようになりました。このような改宗者たちの多くは学生をはじめとする若い人々で、やがて彼らがフランスの教会の担い手となり、福音がこの地でしっかりと根を下ろす原動力となっていくのです。1961年、フランス伝道部が分割されてフランス東伝道部が創設され、その翌年の1962年には、ナントにフランス初の礼拝堂が献堂されました。

1970年と1974年に伝道部の境界が調整され、フランス、フランス東、フランス・ベルギーの3伝道部から、合計7つの伝道部が作られました。そして

1975年11月16日、フランスの会員数が約1万人に達したのに伴って、フランス初のステーク、フランス・パリステークが創設されたのです。

パリとその近郊には全フランス人会員2万6,000人のうち4,000人が住み、現在もフランスにおける教会の重要な拠点になっています。パリ以外の地域にも教会はしっかりと根を下ろしています。教会はゆっくりと、しかし着実にフランス全域で成長を続け、今では7つのステークと7つの地方部を持つまでになりました。3つの伝道部にはフランス国内だけが含まれ、ほかに2つの伝道部はフランスを一部含んでいま

す。

フランスで教会が発展しているいちばんの理由に、たゆまぬ伝道活動が挙げられます。プライバシーを非常に大切にしている国民性のため、宣教師たちが求道者と信頼関係を築くには時間がかかります。しかし、いったん信頼関係が培われ、バプテスマを受けると、フランス人の教会員は福音に対して強い忠誠心と献身を示すようになります。

ロベール・ソーライツもそんな教会員の一人です。スペイン国境に近いピレネー山脈で育った彼は、自分の受け継いだバスク民族の伝統を誇りに思っています。しかし、家族の伝統が証を得るうえで障害となりました。「証を得るのに苦労しました」と彼は言います。「妻がバプテスマを受けたときは花束を贈りましたが、わたしには福音は無用だと思ったものです。それでもわたしたちは、3年間一緒に教会に出席し、祈りました。

そしてある日、妻とともに一人の青年のバプテスマ会に出席しました。それまで長い間準備をしてきたわたしは、バプテスマを受ける決心ができていました。しかし、妻を驚かしたいと思いました。それで、妻のそばを離れると、監督を探し、急いで面接をしてもらいました。それからバプテスマを受けたばかりの青年の濡れた服を着て前に進み出たのです。何が起きているのか気づくと、妻はうれし涙を流しました。」それ以来、ソーライツ

兄弟は福音に献身し、今までに3度バヨンヌ支部の支部長を務めてきました。

フランス人のラ



左ページ——フランスでの教会の成長の中心には、たゆまぬ伝道がある。右——3度支部長を務めたロベール・ソーライツの外向的な性格により、バヨンヌ支部の会員の中にはいつも家族的な雰囲気漂っている。



イフスタイルには、目標達成に向けて邁進する一方で人生をのんびり楽しむ、あるいは、友好的で社会的である一方、ある点では厳しくプライバシーを守る、といった両極端が混在しています。フランス人は教育を重んじ、世界でも有数の低い文盲率を誇っています。子供たちは3歳から就学し、週5日午前8時から午後5時まで学校に通います。大人は友人と街角のカフェで会話を楽しみ、また家族とフルーツやチーズ、焼きたてのパンなどを囲んで語らいのひとときを過ごします。知的かつ文化的な探求が自立心と同様に尊ばれる国柄なのです。宗教に頼ることは一般的にあまり感心したものとは思われず、宗教についての話し合いは内密な事柄と考えられています。しかし、御霊を感じたとき、フランスの人々は、献身的に、そして心から福音を受け入れるのです。

例えば、二人の宣教師がニームのジャック・フォードンのドアをたたいたとき、当時18歳の熱心なマルクス・レーニン主義者で無神論者だったジャックは、どんな教会にも入りそうにない青年でした。「わたしが宣教師



右——タレンスワードの託児室のこの子供たちのように、フランスの子供たちは福音に対する理解を深めながら成長しつつある。

右ページ——多くのフランス人教会指導者と同様、ジャック・フォードンも若いときに福音を見いだした。



を家に入れたのは、彼らと論争して無神論に改宗させようと思ったからです」とフォードン兄弟は言います。「でも、2度目のレッスンが終わったとき、わたしの心は揺れ動いていました。宣教師たちにはわたしには分からない力がありました。わたしは反論するのをやめ、自分の無神論を疑い始めたのです。」

それがジャックにとって人生の岐路になりました。神が存在するのか答えを見つけようと決心したのです。宣教師から『モルモン書』をもらったときもまだ半信半疑で、『モルモン書』が誤っていることを証明しようと思ったものでした。しかし、2週間絶え間なく研究した結果、何の過ちも見つけることができませんでした。

「わたしは霊的^{あかし}な証が欲しかったのです」とフォードン兄弟は言います。「わたしは心の中で主と聖約を結びました。もし主がわたしの祈りにこたえてくだされば、生涯を主にささげると。当時十二使徒定員会のハワード・W・ハンター長老がマルセイユの礼拝堂の献堂に来られることを聞いたのは、それから間もなくでした。わたしは断食をして献堂式に出かけました。宣教師たちがわたしをハンター長老に紹介してくれたとき、わたしはプログラムを手渡して、何か書いてくださいとお願いしました。長老はわたしの目をじっと見詰め、それから『もし信仰と祈りを実践するなら、証が得られるでしょう』と書いてくださいました。わたしはこのプログラムを家に持ち帰り、何度も読み返し、信仰と祈りを実践し続けました。そして、断食を終えたある

夜、わたしは答えを得られたのです。何の迷いもなく、『ジョセフ・スミスは預言者であり、『モルモン書』は真実である』と知ることができました。その2日後の1968年7月27日、わたしはバプテスマを受けました。」

約束どおり、ジャックはその人生を主にささげ、多くの重要な指導者の職を果たしてきました。

1960年代と同様、現在も若い男女が教会に入ってきています。そしてますます多くのフランスの青年たちが伝道に出ています。フランスの男性は19歳になると1年間の兵役が義務づけられています。また、学校のコースによっては数年間続けて通学することが要求されることもあります。それにもかかわらず、伝道に出るために多くの若い男女が進んで必要な犠牲を払っているのです。

1979年にアルプスの教会の活動で独身成人として出会ったフレデリック・バピンと奥さんのフランソワは、結婚前にフレデリックの兵役と二人の学業と伝道を終えるために6年計画を立てました。ほとんどのカップルはこれほど明確な計画を立てませんが、結果的にはほぼ同様の道をたどります。25歳から30歳の間まで結婚を延期するので

す。モルモン2世で、現在モンペリエ支部の支部長を務めるパトリック・パオレッティは、伝道に出いていません。「後年伝道の必要を実感しましたから、今では支部の全青少年に伝道に出るよう勧めています。」聖餐会^{せいさん}で伝道に出るよう力説するとき、パオレッティ支部長は、しばしば目に涙をためて、自



分の経験を話します。「伝道に出なかつたことを非常に後悔しています」と彼は言います。「支部の青少年たちには、わたしが逃してしまった祝福を受けてほしいのです。」会員200人のこの支部から、現在9人が専任宣教師となり奉仕しています。

教会の発展は会員伝道の結果でもあります。この業には、誠実な友人関係と変わらぬ模範が最も大切です。「いちばん強い改宗者は、教会員の友人たちです」とフランス・マルセイユ伝道部のガレン・S・ウーリー部長は言います。

マルセイユ近くの町サロンでのバプテスマは、心のこもった友情に根差した会員伝道の成功例と言えます。ジャック・ロート、ミレーユ・ロート夫妻は曲がりくねった山道を上った所に住んでいました。深い峡谷を見渡せる大きな家でした。過去10年間、近くに家が建つ度にロート夫妻は新しい隣



人と友達になれるように尽力しました。その結果、近所の数家族、合計57人が教会に加入したのです。「スペンサー・W・キンボール大管長が近所の人たちと福音を分かち合うように勧告したとき、わたしはその言葉を真剣に受け止めました」と、ロート兄弟は言います。「わたしたちはすばらしい隣人に恵まれていますし、彼ら愛しているんです。その愛の自然な発露が福音を分かち合うことだったのです。」

庭の手入れ

伝道に加えて、ステークの創設も福音がフランスに根を下ろす助けとなりました。会員たちは奉仕を通して指導力を身に付けます。フランスの支部やワードの多様性は、言ってみれば、雑草一つない田舎の野菜畑と、緑の葉や様々な色のかぐわしい花々が咲く、町のアパートのプランターのようなものです。パリ地域で、ベルサイユの成熟した昔からのワードと熱気あるクリシ支部を一目見れば、フランス中の同じようなワードや支部の様子が分かるはずで、農村地帯には、モントーバン支部のように小さい支部が多く見られます。

ベルサイユ。IBMに勤務するジャン・ルーク・マーグレが、ベルサイユワードの監督を務めています。マーグレ監督と奥さんのピアトリスには4人の子供がいます。ベルサイユワードはフランスで最も古いワードの一つで、フランス・パリステークセンターとしても使われている赤レンガの礼拝堂で集会が開かれています。260人の会員

の多くは活発で、この数には一時的に滞在している日本人やアメリカ人のビジネスマンとその家族が多く含まれています。ステーク指導者の多くはこのワードに所属しています。

「わたしたちの最大のチャレンジは、明日進歩するために今日何ができるかということです」とマーグレ監督は言います。「外国から来ている短期滞在の会員たちがこのワードに力を増し加えてくれていることには心から感謝しています。しかし、この地の教会の将来はフランス人会員をいかに強めるかにかかっているのです。」マーグレ監督は、このワードのチャレンジに対し、いつも創造的な解決法で、ビジョンをもって対処しています。例えば、境界が広い地域にわたるこのワードには、会員たちの小さなグループが散在していますが、マーグレ監督は、地元の神権指導者がこれらの小グループにとって羊飼いの役割を果たすように励ましています。これによって、グループ内の人々の一致を図り、福音を分かち合うことを通して彼らの証をより堅固なものとするのです。

「20年前と同じ方法に固執することはできません」とマーグレ監督は言います。「例えば、この辺は大変道の混雑する所で、会員たちは大概7時にならないと職場から帰宅できません。ですから、時間の節約のために集会を統合するようにしています。そして、できるだけのことをして、残りは主にゆだねているのです。」

ステーク扶助協会会長のセシル・ブルーも同じ考えです。「教会がよく確立しているこの地域でさえ、会員の



左ページ——パリの独身成人は、楽しんで活動に集い、互いの友情を心の支えとしている。上——ベルサイユのジャン・ルーク・マーグレ監督と奥さんのピアトリス。下——クリシ支部の聖餐会。

多くは幾つかの召しを兼任しています。創造性を働かせてそれらの召しを果たしていかなければなりません。扶助協会では、家庭訪問を通して姉妹たちを強めることを目標の一つにしています。扶助協会の姉妹たちが力を合わせれば、福音を世に広める強い力になれるでしょう。」

クリシ。最近パリステークの会長会に召されるまで、クリスチャン・スー

レはクリシ支部の支部長を務めています。支部長に召されたとき、彼と二人の副支部長はまだ独身でしたが、今では3人も結婚し、2組のカップルには最近赤ちゃんも誕生しました。若



下——出産祝いのパーティーを楽しむクリシ支部の姉妹たち。右

ページ、左から——ベルサイユ宮殿を訪れた独身成人。絵のように美しいモンターバン。教会広報委員会代表のシルビー・トラムヘル。

若しく、活力と靈性に満ちたこの支部は、町のビジネス街にある最近改装したばかりのビルの最上階で集会を開いています。この支部では少なくとも8か国語が話されています。フランス、西インド諸島、アメリカ、スウェーデン、ドイツ、トリニダード、南アメリカなどの地域出身の会員たちがいるからです。聖餐会せいさんかいの出席は、去年1年間

で2倍になりました。

「主はわたしたちに特別な目的を持っておられるのだと思います。この支部がこれだけ急速に成長しているのは、そのためなのです」とスーレ副会長は言います。「今までの経験から、わたしたちが従順であるとき、主はわたしたちに何を望んでいるのか教えてくださいました。主の愛を感じていますから、これからも御心みこころを行っていきたいと思います。いつかわたしはある仕事上の集まりに出席していて、お酒を飲まなかったことがありました。すると、わたしが取り引きをしたいと思います人の一人が、





『酒を飲まないなら、あなたとは取り引きしない』と仰いました。わたしは少し考えてからこう仰いました。『わたしの能力よりも、わたしのグラスの中身を大切に考える方は、こちらこそ取り引きを見合わせさせていただいた方がいいかもしれません。』その人はきっと腹を立てただろうと思っていたのですが、翌日電話があり、自分の信じることを恐れず実行したわたしのほかに取り引きをしたい人はいないと言ってきたのです。正しいと分かっていることは、何が何でも実行すべきです。』

扶助協会会長のマリー・シヨンは、「わたしたちは一致しています」と言います。「遠く離れて住んでいても、ホームティーチングと家庭訪問の訪問率は向上しています。会員たちは、頼まれなくても進んで互いに助け合っています。」

モントーバン。水路にアーチ型の橋がかかった魅力的なモントーバン村は、フランス中南部のガロンヌ川のほとりに位置しています。ここの支部は小さいながら活気があふれています。約35人の活発会員と4人の専任宣教師が集っています。会員たちは町の大通りにある、しみ一つない新築の建物で集会を開きます。小さな支部の多くがそうであるように、信仰強い数家族が支部の大黒柱の役割を果たしています。モントーバンでは、バン・トンデール家族がそんな家族の一つです。南ア

リカ、スプリングス出身のバシール・バン・トンデールがフランス出身のポーレットと出会ったのは、ヨハネスブルグのステーキが主催したアイススケートの活動でのことでした。二人はそれから2か月後に結婚しました。

今では7人の子供を持つバン・トンデール夫妻は、南アフリカとフランスの両国に交互に住んできました。心温かくて霊的な二人は、多くの人と熱心に福音の喜びを分かち合ってきました。バシールは支部長を務めており、よく家族と一緒にパンを焼いては、宣教師を食事に招待しています。また、老人の世話をしたり、祝日に人を家庭に招いたりもしています。二人の優しさや深い霊性が教会の集会にも影響を与えています。町の人たちは教会の活動に参加するのを楽しみにしており、1992年にはバン・トンデール家族をモントーバンの功労家族として表彰しました。

扶助協会の会長に召されている19歳のミレーユ・バン・トンデールはこう言います。「わたしがいつも忙しくしているので、時々友達はどうして自分のことを自由だと言えるのか理解できないと言います。でも、わたしは彼女たちに、自分のしていることは『しなくてはならないこと』ではなくて、『したいこと』なんだと教えているんです。」

教会に加入する人が多いとはいえ、再活発化は会員、宣教師を問わずどこ

でも最優先事項の一つです。クロード・ガストンは従軍中に教会にあまり活発ではなくなってしまいました。末日聖徒と結婚したものの、めったに教会には行きませんでした。「二人目の子供が生まれたころから、姉の家庭をよく観察するようになり、彼女の家族に注がれている福音の祝福に気づきました」とクロードは言います。「妻と子供たち、わたしの父、そして支部長はよくわたしを励ましてくれました。それでも教会に戻ろうとしなかったのはわたしが高慢だったからでしょう。」しかし9年後、クロードは再び教会に出席し始めました。それから一年半後、彼は家族を伴ってスイス神殿に参入し、結び固めを受けたのです。

「福音に従ったおかげで、とても平安で、地に足の着いた人生を送れるようになりました」と、ガストン兄弟は言います。彼は現在ビトロールワードの監督を務めています。「わたしたち家族は愛によって結ばれています。そのことをとても喜んでます。もしわたしが活発にならなかつたら、家族はきっとばらばらになっていたことでしょう。」

根を下ろす

この地の家族は相当な困難に直面しています。パリやそのほかの都市では、住居費が高いために家庭の外で働く母親や、子供の数を二人に制限する夫婦

が多いという結果を生んでいるのです。末日聖徒の家族も同じ困難に直面していますが、大きな犠牲を払い、母親が家庭にとどまって4、5人の子供を育てています。



フランス・ニューステーク会長ジャンエメイ・デュランと奥さんのシャントルは、子供を持つことは大きな祝福であると感じています。デュラン会長は言います。「バプテスマを受けてから、もっと子供を持つと決めました。この決断にいつも感謝し続けてきました。聖文学習、個人と家族の祈り、家庭の夕べ、そして教会に出席することが子供たちに信仰の盾を与えてくれます。彼らは真理を知っているので、誤った教義に直面しても迷うことはありません。」

デュラン姉妹も同意見です。「わたしたち夫婦も子供も、神権の祝福によって守られています」と姉妹は言います。「福音は、子供に対するわたしの見方を完全に変わってくれました。この子たちは天父の子供なのだ悟ってから、子供たちとその独創性に対してより大きな敬意を払うようになりました。」

子供たちは多くの誘惑に取り囲まれています。でも、アングーレムに住む10歳のギオーム・ラファルグは言います。「ぼくはバプテスマを受けたときに約束したので悪いことはしません。してはいけないことが何なのか、よく分かるんです。」大勢の末日聖徒の子供たちのように、ギオームも福音とそのプログラムから霊的な強さを受けています。祝福師の祝福、セミナー、そして教会の活動は彼らの勇気の源となっているのです。

スーレ副会長はこう言います。「子供たちのために祈っています。また彼らに期待もしています。あるとき青少年の活動でサンドイッチを作って、地

下鉄近辺のホームレスの人々に配ったことがありました。子供たちは、食事を渡した人たちのうれしそうな表情が忘れられず、いまだにそのときのことを口にしていますよ。」

開...花

神殿参入は、フランスの会員たちにとって非常に大切な目標です。パリとフランス北部に住む人たちは、ドイツ・フランクフルト神殿に参入します。そのほかの会員は、ベルン郊外のツォリコーフェンにあるスイス神殿に参入します。彼らにとって、遠距離、費用、そして時間は大きなチャレンジですが、それでも年に1度から3度は参入しています。比較的近くに住む人たちはそれ以上参入しています。

「神殿はまさに地上の天国のような場所です。神殿に勝る所はありません」と言うのは、イーゼンワードのミシェリーン・ダビドです。「家族の歴史と神殿の業を並行して始めると、まるで愛という糸を限りなく紡いでいるように感じます。」

会員の中には、ステークの神殿訪問のときに神殿奉仕者として働く人たちもいます。アングーレムのアンドレとアリス・ラファルグは長年、神殿奉仕者として働いてきました。家族歴史を探究するのも大好きです。「家族歴史の作業に取り組んでいるとき、この世と来世を隔てている幕がとても薄く感じられます」とラファルグ姉妹は言います。「先祖の名前と日付などの情報を集めるときは、いつも助けを求めて祈ります。また、神殿で先祖の儀式を



左ページ——フランスでは、末日聖徒の青少年数が急増している。皆、福音に忠実な生活を送っている。アングレムワードのクリストフ・アンブロもその一人。上——「家族歴史の作業に取り組んでいるとき、この世と来世を隔てている幕がとても薄く感じられます」アリス・ラファルグは、孫のギオームとダニエルに系図表を見せながらそう話してくれた。

行っている間、先祖を近くに感じることが出来ます。」

徐々に会員が増え、信仰堅固な地元の指導者が増えてきている今、フランスの教会員たちが楽観的なのも当然と言えます。「わたしには、この国の教会の将来に確信があります」とジャック・フォーダンは言います。「わたしには進歩が見えます。時には困難もありますが、福音は真実ですからすべてうまくいきます。5年から10年のうちに、多くのモルモン3世が、そして4世までもが誕生するはずです。多くの家族は結婚によって姻戚関係になるでしょう。3世代の教会員ができたとき、福音は確かに根付いたと言えるのではないのでしょうか。」

農村部のよく世話の行き届いた畑のように、フランスの支部やワードはすばらしい実を結んでいます。庭の植物のために草むしりと水やりをしてよく手入れをする庭師のように、地元の指導者や専任宣教師は、それぞれの地域の必要に心を尽くして対処しています。福音にしっかりと根を下ろしたフランスの会員たちは、その強さと美しさという点で、まるで夏の暑さと秋の霜に耐えて生き延び、10月の暖かい日の光にその生を謳歌している、庭園のたくましい植物のようです。彼らは、堅固な信仰で、次の夜明け、春、そして成育期を迎えようとしているのです。□

ささやかな 行いから

リト・B・リガスビ

わたしたちはほんのささやかな行いをしたにすぎません。しかし結果的に、ある村全体が福音のメッセージに心を開いてくれることになったのです。

わたしたちは疲れと挫折を感じながら坂を下りるところでした。フィリピンのソゴドに来てからもう16日が過ぎていました。この地域での伝道の業が開始されてからというもの、わたしたちは村の坂という坂を上り下りし、たくさんの人々に話しかけました。しかし、わたしたちのメッセージに耳を傾けてくれる人に、まだ巡り会っていませんでした。断られてばかりのつらい日々を送っていたのです。

ソゴドは美しく静かな入り江に面した、小さいながらも楽園のような村です。わたしとアメリカ人同僚のアーチャー長老は、その日もこの村で伝道していました。「ちょっと一休みして計画を立てましょう」とアーチャー長老が額の汗をぬぐいながら提案しました。アーチャー長老の首と腕は日に焼け、わたしの肩はリュックに詰めた『モルモン書』30冊分の重みで痛くなっていました。わたしたちは木陰に腰を下ろし、週間計画表に目をやりました。

「次の約束は今晚の6時半なのに、まだ3時半ですよ。これから何をしましょうか」とアーチャー長老が尋ねてきました。



「とにかく伝道を続けましょう。川の方に向かう通りが見えますか。伝道に適した場所だと思いますよ。それに、ココナツの木で日陰も多いですしね」とわたしは答えました。

坂を下りながら、わたしは心の中で「今度は断られませぬように」と祈りました。そのうちにわたしたちは初めて通る十字路に出ました。そこで竹竿、木材、屋根板、それと大工道具を抱えた老夫婦に出会ったのです。

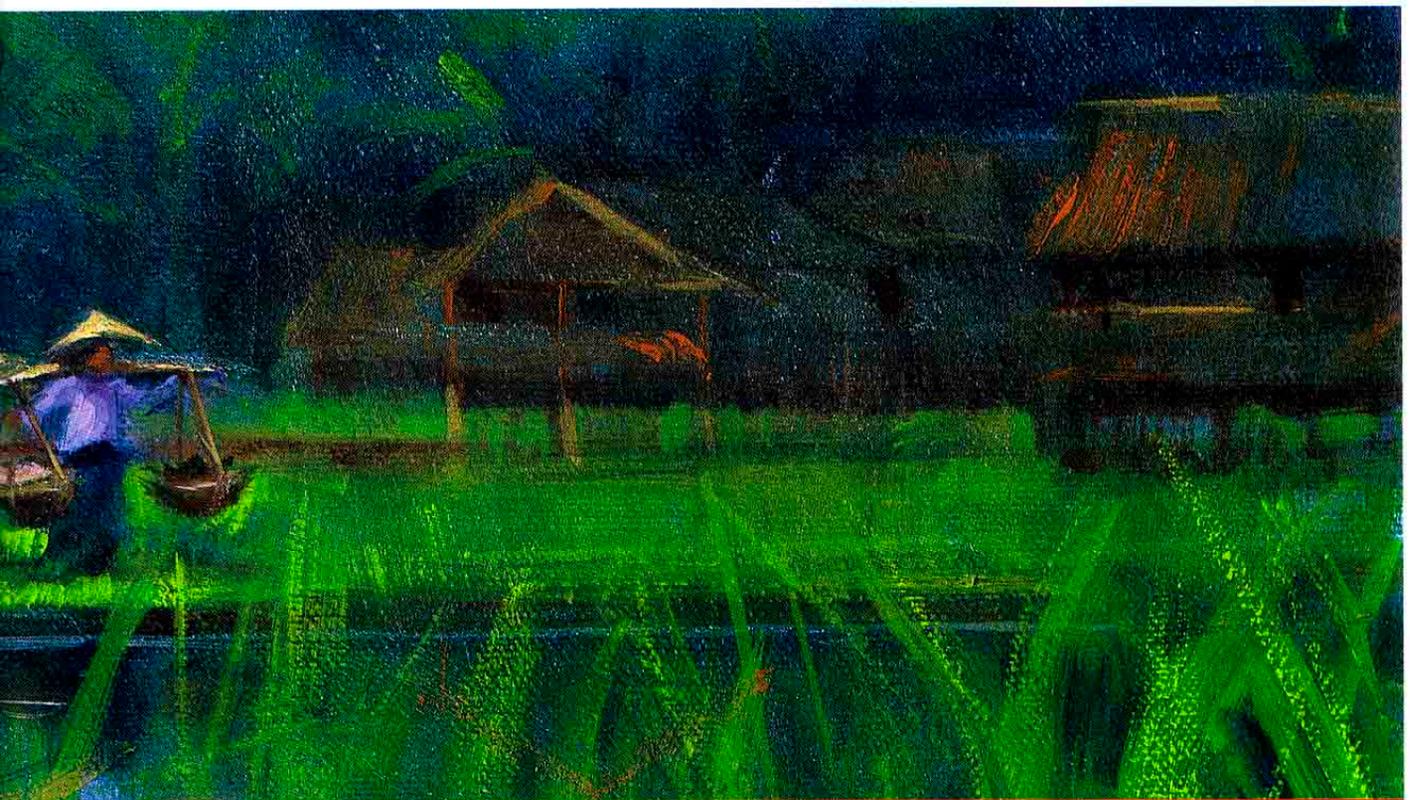
「荷物運び、手伝いましょうか」とわたしたちは話しかけました。二人は最初少し戸惑っている様子でしたが、結局わたしたちの熱意に負けて、一緒に運ぶことになりました。どれくらいの距離を運ぶのかはよく分かりませんでした。わたしたち二人の姿はさぞかし異様に見えたようです。なぜなら、目的地であるその村にたどり着いたとき、老夫婦の荷物を担いだワイシャツにネクタイ姿のよそ者を見ようとたくさんの人だかりができたからです。

そのときに分かって驚いたのですが、わたしたちが運んでいたのは台風で家を吹き飛ばされた家族の仮住まいを建てるための材料だったのです。「老夫婦と話してい

る二人の訪問者は一体何者だろう。」そんな好奇心に駆られた村人たちがわたしたちの周りにたくさん集まって来ました。しばらくして、わたしたちは感謝の笑みを満面に浮かべた老夫婦に見送られながら、その村に別れを告げました。その日の出来事をわたしたちは心地よく感じていました。

老夫婦のために荷物を運んであげたのはほんとうにやさしい行為でしたが、それがきっかけとなってその地域での伝道活動の門が開かれたのです。わたしたちの行いは村人の中で語り草となり、その結果、福音に関心を持ってくれる人の数が増えていきました。わたしとアーチャー長老は、あのやさやかな奉仕のおかげでソゴドの村が祝福を受けるのを目の当たりにしました。わたしはそこで4か月近く伝道しましたが、その間教会はすばらしい発展を遂げました。

わたしは心から人々に奉仕する人に主が約束されたことの意味をやっと理解できるようになりました。人に与え、人を助け、人を真理に導くときに、尽きることのない喜びを味わえるのです。わたしたちは、その日ソゴドで、経験を通してこの真理を学んだのでした。□



ILLUSTRATED BY KEITH LARSON

父の言葉

トーマス・ハンコック



カウボーイには、酒やたばこをやるという悪いイメージがあります。わたしが父に心から感謝しているのは、カウボーイである父がそのようなたぐいのものを一切口にせずにはばらしい模範を示してくれたことです。

以前、父にロデオに連れて行ってもらったときのことです。父の旧友がそばに寄って来て、父に話しかけました。会話の中で彼は、「ロデオが終わったら、昔のように酒場で一杯やらないか」と持ちかけました。

すると父は、ただにっこり笑ってこう答えたのです。「わたしが飲まないことは知っているだろう。」

その友人は、「ああ、もちろんさ。ちょっと試してみただけだよ」と言ったのです。

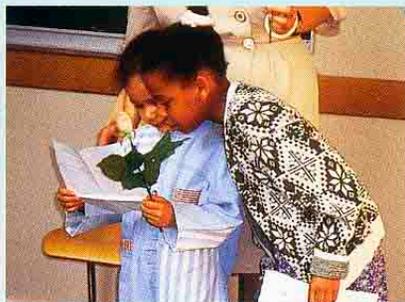
父のその言葉はわたしにとって、ただの親しみを込めた断りの言葉にとどまらず、はるかに大切なものに聞こえました。その日、かけがえない模範を示してくれた父に対し、わたしは尊敬の念を抱いています。以来、酒やたばこに誘われる度に、決まってあの父の言葉が頭に浮かび、同じ言葉を口にするようになりました。☒



「ゼラヘムラへ逃れるリムハイ王とその民」 スティーブン・ロイド・ニール画
酒に酔った見張りの兵は、ニーファイの町から逃れようとしているリムハイ王とその民に気づかなかった。
この町でリムハイ王の民はレーマン人の奴隷の状態にあったのである。
彼らは大小の家畜の群れを連れ、貴重な品々を携えて荒れ野の中を旅した。
そして、ゼラヘムラの地に到着し、モーサヤの民に加わった（モーサヤ22章参照）。



農 村部のよく世話の
 行き届いた畑のよ
 うに、フランスの支部や
 ワードはすばらしい実を
 結んでいる。末日聖徒た
 ちは、福音にしっかりと
 根を下ろし、堅固な信仰
 で、次の夜明け、春、そ
 して成育期を迎えようと
 している(本誌「フラン
 ス」p.32参照)。



教会、歴史的な一歩をしるす

— アメリカ合衆国以外の教会員が過半数を占める —

「神の王国の鍵は地上の人にゆだねられており、あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように、そこから福音は地の果てまで転がり進むであろう。」(教義と聖約65：2)

ソルトレーク・シティー発

「アメリカの教会」として長い間知られてきた教会が、世界の教会としての歴史的な一歩をしるした。今世紀に入って初めて、約940万の教会員の過半数をアメリカ合衆国以外の国の教会員が占めるようになった。

約940万強の教会員を擁する末日聖徒イエス・キリスト教会は、1世紀以上の間国際的な教会として発展を遂げてきた。事実、19世紀半ばにはイギリスでの伝道が活発に行われ、一時はアメリカ合衆国の教会員数よりも多くなったことがある。しかし、20世紀に入るとこの状態は逆転し、以来アメリカ合衆国の教会員数が主流を占めるようになっていた。

しかしながら、最近の世界中の教会員記録を集計した結果、アメリカ合衆国の教会員数をアメリカ以外の国々の教会員数が上回ったことが判明、当教会の近年の劇的な国際的發展を裏付けるものとなっている。

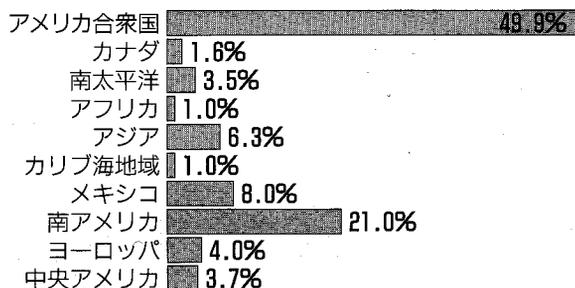
日本では過去20年で教会員数が2万7,000人から10万8,000人に伸びた。

教会の国際的な発展は、建設中の16

の神殿の中で10か所が合衆国以外ということからもうかがい知ることができ。神殿は規模においても装飾においても壮大な建物で、その建設は世界中の教会員にとって画期的な出来事となる。神殿は教会員数の多い場所に建てられ、その地域での当教会のシンボルとなる。

当教会の指導者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べている。「教会は驚くべき姿で発展しています。世界中に奇跡的な姿で広まりつつあり、3年ごとに100万人の新教会員が加入しています。」

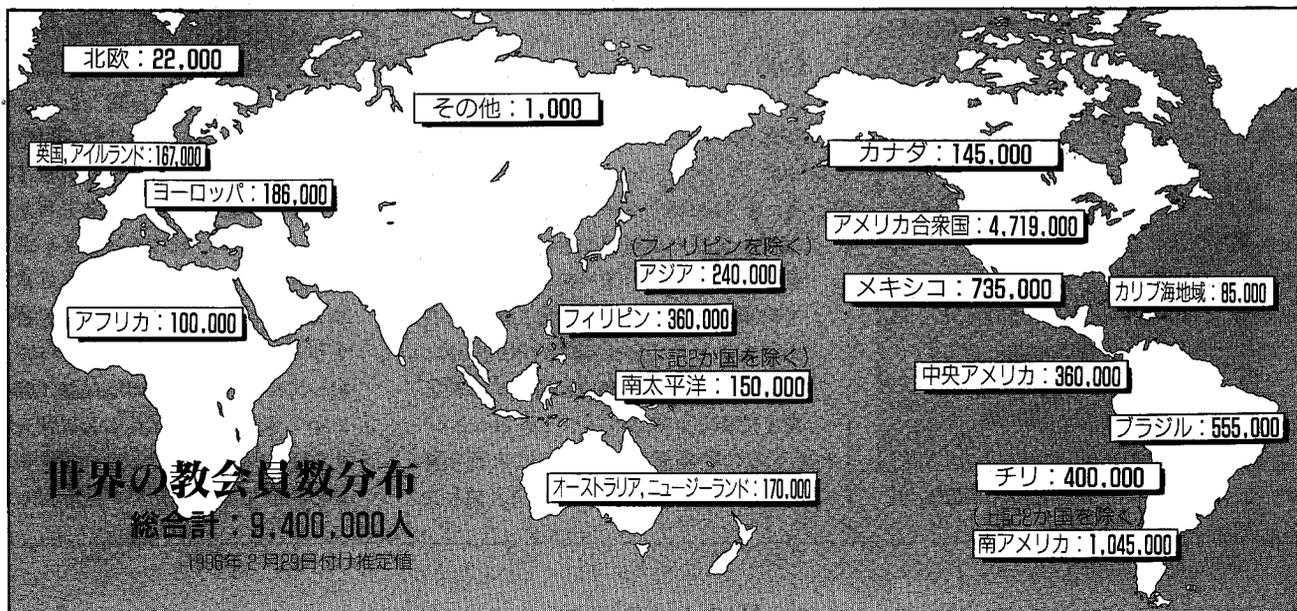
教会員数分布状況



使用言語

言語	人数
トンガ語	57,321
韓国語	64,977
イロカノ語*	66,499
セブアノ語*	76,148
サモア語	81,127
日本語	102,223
タガログ語*	111,896
ポルトガル語	550,772
スペイン語	2,499,993
英語	4,977,916

*フィリピン諸語の一つ



1980年以来、アメリカ合衆国以外の
国々の教会員数は28パーセントから今
日の50パーセントまで増加した。

当教会が公式に設立されたのは1830
年4月6日、アメリカ合衆国ニュー
ヨーク州フィンガーレーク地区におい
てであるが、1847年からはソルトレ
ーク・シティーに本部が置かれるよう
になった。

設立以来、教会は伝道活動に力を注
いできた。それが現在の教会の発展と
活力の源となっている。今日、約5万
人の宣教師が世界中に派遣され、イエ
ス・キリストの回復された福音という
自分たちの信じるユニークなメッセ
ージを伝えながら人々の改宗に努力を傾
けている。

設立時はわずか6人であったこの教
会は、現在では156の独立国および属
領地で2万2,000以上のユニットを持
つまでに発展してきた。

最も劇的な発展を遂げたのはラテン
アメリカである。メキシコとブラジル
はそれぞれ73万5,000人と55万5,000人
の教会員を擁し、合衆国に次ぐ規模で
ある。また、チリとペルーは5位と6
位である。4位はフィリピンで、教会
員数は36万人である。

最近の発展が著しいのはアフリカで
あり、1976年には7,000人に満たな
かった教会員数が、現在では24か国で
10万人を擁するまでになってきている。

英語、スペイン語、ポルトガル語に
次いで教会で共通に話されている言語
を見ると、合衆国以外でどの地域が発
展しているかが分かる。タヒチ語、ト
ンガ語、サモア語、韓国語、中国語、
広東語、ラオス語などの言語、それに
タガログ、セブアノ、イロカノ、ヒリ
ガイノン、パンガシナン、ピロカノな
どのフィリピンの各地の言語である。

アメリカ合衆国とラテンアメリカに
次いで末日聖徒の数が多いのは、アジ
ア、南太平洋地域、ヨーロッパ、カナ
ダ、アフリカ、カリブ海地域の順であ
る。□

各界要人、全米祈禱朝

教会広報スペシャリスト
ジョセリン・マン・テンヤー

2月1日ワシントンD.C.で、ビル・
クリントン合衆国大統領とヒラリー夫
人、アル・ゴア副大統領とティッパー
夫人の列席を得て、「1996年度全米祈
禱朝食会」が開催された。当教会から
は、七十人で北アメリカ北東地域会長
のボーン・J・フェザーストン長老
が出席した。

ワシントンD.C.発

教 会員には、おなじみの「恐れず
来たれ、聖徒」（『賛美歌』17
番）の旋律が流れる中、4,000人を超
える合衆国政府、諸外国、州および宗
教界の指導者が一堂に会して、世界平
和と、全世界の人々への理解と愛を求
めて祈りをささげる朝食会が開かれた。

この会を主催したのはユタ州選出の
ボブ・ベネット上院議員である。同議
員は当教会の会員であり、毎週上院の
有志議員が出席して開催されている祈
禱会の会長を務めている。

朝食会でフェザーストン長老は教
会を代表して演説し、次のように述べ

教会主催の絵画展 子供たちの美術作品を募集

ソルトレーク・シティー発

ソ ルトレーク・シティーにある教
会歴史美術館では、5歳から11
歳までのすべての末日聖徒の子供たち
を対象に、特別絵画展への出品を呼び
かけている。この絵画展のテーマは、
「過去、現在、未来の末日聖徒の開拓
者」である。

「この絵画展は、1847年に末日聖徒
がユタ州ソルトレーク盆地に入植した

ことを記念する『1997年、開拓者150
周年祭』の一環として催されます」と、
同絵画展の企画担当者、マリリン・ク
リス・クラーク姉妹は述べている。

「しかしながら、出品は腕馬車や手
車の絵に限定されている、と世界中の
子供たちが感じることはないように
願っています。彼らの作品は、自国に
おいて末日聖徒の開拓者とは何を意味
するかを示すものでもよいですし、将
来の末日聖徒の開拓者が何を行ってい

食会で家族の大切さを主張する

た。「家族というただ一つのテーマの下に各界を代表する4,000人もを中心の指導者が集まるというのは考えるだけでも素晴らしいことです。」

朝食会後の記者会見でフェザーストン長老は、「家族、神への賛美、キリストに対する信仰、信頼、尊敬、道徳など、教会が最も大切にしていること」が、会衆から称賛的になったときこの上ない感動を覚えた、と語った。

さらに、「クリントン大統領が家族について語り、ベネット上院議員も家族について意見を述べるなど、ほとんどすべての話者が家族の大切さに関するテーマに集中していました」と会の

模様を伝えた。

クリントン大統領の演説は、家族と子供が直面している様々な問題に触れ、「我々にとっての最重要課題は、子供たちを大切に育てることとアメリカの家族を強めることです。家族はアメリカ国民の生活の基盤です。我々が堅固な家族を築いていけばいくほど、アメリカは堅固な国家となるでしょう」と言明した。

フェザーストン長老に随行した、バージニア・オクトンステーキの会長で、教会広報部ワシントンD.C.地区ディレクターでもあるT・ラマー・スレイトは次のように述べている。

「教会は、今日の社会において家族を強める必要性をよく認識しています。この国の人々が、過去において堅固な社会を築く基礎となった価値観に再び注目することを望み、また祈るものです。」

朝食会を閉じるに当たって、メトロポリタン歌劇団所属の教会員、エリエール・バイビーが「わが主よ、わが神」（『賛美歌』44番）を歌い、大喝采を浴びた。ついで彼女の指揮により出席者全員で「主の愛に驚く」（“Amazing Grace”）を歌った。（Church News 『チャーチニュース』1996年2月10日付け）

くべきかを思い描いたものでもけっこうです。」

クラーク姉妹は、「子供たちはあらゆる設定や状況で開拓者を描写できるはずです」と語っている。「例えば開拓者とは有名人やグループ、家族かもしれないし、その作品を提出している子供自身を指すと考えることもできるでしょう。末日聖徒の開拓者は小さな町や片田舎の村で生活していることもあれば、都会で生活していることもあります。教会が自分の国で十分に確立されるずっと前に教会に改宗した人かもしれません。彼らは皆、開拓者なのです。」

出品作品は、36センチ×28センチ以内の紙に描かれたものに限定されている。鉛筆、クレヨン、水彩絵の具、パステル、デッサン用の木炭、油絵の具、そのほかの画材を用いた素描、油絵、水

彩画、コラージュなどの応募が期待されている。

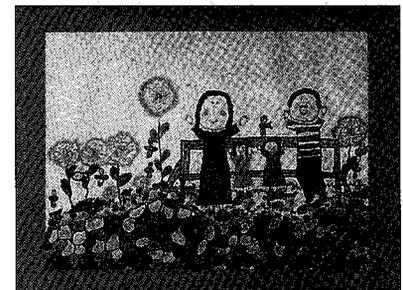
紙の表には作品だけを描き、作者の名前、住所、ワード／支部名、ステーキ／地方部名は裏面に明記する。さらに作者は、描いた開拓者の名前と彼らがどの時代の人物かを記し、なぜ彼らを開拓者であると考えているかなどの簡潔な説明も付記する。

出品は、教会歴史美術館（The Museum of Church History and Art, 45 North West Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, USA）に直接郵送するか、もしくは地元の配送センターに送付する。配送センターは、届いた絵を一括してソルトレーク・シティに送付することになっている。締め切り日は、美術館ならびに配送センターのいずれに送付する場合でも、1996年10月25日となっている。

応募作品はすべて美術館の所有となり、返却されない。

絵画展には、最も創造力と独創性に富んだ作品を約300点選び、1997年の1月から10月まで展示する。

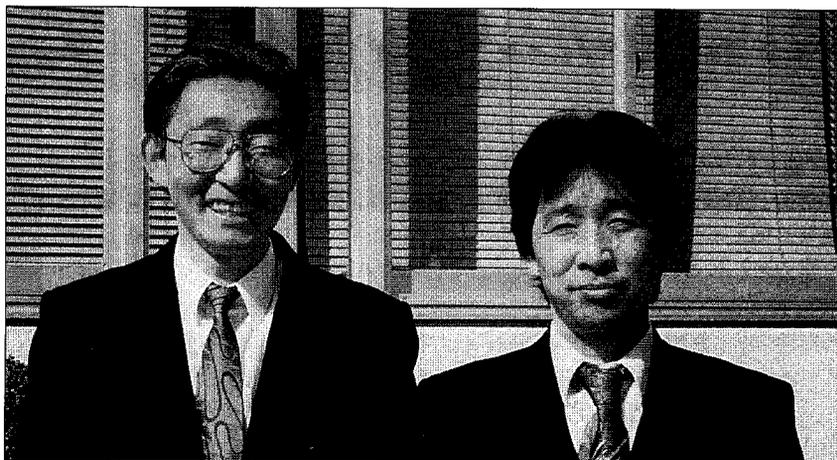
この児童絵画展は、1993年に初めて開催され、世界中から2,600点以上の応募があった。展示用に選考された300点の一例が、1993年9月号の『聖徒の道』に掲載されている。□



「第1回国際児童絵画展から」

再組織された神戸伝道部御坊地方部長会

去る2月11日、アジア北地域第一副会長のサム・K・島袋長老管理の下に開催された御坊地方部大会で、1995年10月より地方部長の責任を果たしてきた山本謹彰兄弟が解任され、新たに中沢悟兄弟（写真左）が召された。第一副部長には浜田耕一兄弟（写真右）が召され、その任に当たる。



主の恵み人にも分かつたん

——「人が存在するのは喜びを得るためである」——

神戸伝道部御坊地方部長
中沢 悟

「ちょっとすみません。少しお話してもいいですか？」19歳になったばかりの夏の暑い日、わたしは東京にいる幼なじみの友人を訪ねようと浜松の駅前を急いでいました。流暢な日本語で呼び止めてくれたアメリカ人青年のおかげで、わたしはこの教会の存在を知ることができました。親元を離れ、一人暮らしを始めたわたしにとって、これからの長い人生で何を支えにして生きていくべきかということとは大切な課題だったのです。そのときは、ただ漠然と自分自身だけを頼りに生きていくしかないと考えていました。

22年前に浜松支部で改宗

何度目かのレッスンのときに『モルモン書』を手に入れました。初めてこの書物を読んだときの印象は、今でもはっきりと覚えています。不完全な人

間がこのような書物を書けるはずがない。もし、神が存在するとすれば、この書物は神から来たものに違いない。そう思ったわたしは続けて話を聞きながら、もしかすると、この教会の教えの中に自分が探していた人生の目的の答えがあるのではないかと直感していました。

3か月後の1974年10月5日、当時まだ民家を借りて集会をしていた浜松支部（現在静岡ステーキ浜松ワード）の教会の庭に作られたバプテスマフォントでバプテスマを受け、教会の会員に確認されたのでした。

時のたつのは早いもので、すでに22年もの歳月が流れようとしています。バプテスマを受けたとき、わたしは一つの決心をしていました。それは、もしこれから先、教会の教えの中に自分がどうしても納得できないようなものがあれば、そのときは教会をやめよう、ということでした。しかし、この22年間の教会員生活の中で、それを見つけることはできませんでした。教会の教

えはすばらしく、いつも自分自身の至らなさを身にしみて感じる毎日でした。

バプテスマから4年たったころ、リーハイが夢の中で、今まで食べたことのないようなおいしい木の実を食べ、それを自分だけではなく、家族の皆にも食べさせてあげたいと思ったとありますが、その思いがようやく分かるようになり、伝道に出る決心をしました。スペンサー・W・キンボール大管長からの専任宣教師の召しを待つ日々は、ほんとうに一日千秋の思いでした。待ちに待ったソルトレークからの手紙をわくわくしながら開封したのを今でもはっきりと覚えています。

1979年5月から2年間、神戸伝道部で宣教師として主に仕える機会を頂いたのは、わたしの最も喜びとする出来事の一つです。伝道生活は、何ものにも変えられない貴重な体験であり、人生の中でもひとときわが光り輝いている時期であると証できます。

前途多難の新婚生活

伝道を終えて5か月後、浜松ワードの会員の方々の温かい励ましと見守りを受けて結婚し、新しい人生のスタートラインに立ちました。前途多難という状態から始まった新婚生活、妻の病

気を何とかして二人で克服したい、一人であるよりも二人の方がもっと強くなれる、病気にも勝てる、そう信じて始めた結婚生活でした。結婚する数か月前、彼女は膠原病という診断を下されていました。ですからわたしたちは結婚当初、子供を授かるなど考えもつけないことでした。しかし、神様は不思議なことをなさるお方です。

結婚して1年余りの後、妻は妊娠したのです。これをきっかけにして、わたしたちは妻の故郷である淡路島の洲本市に引っ越すことになりました。そこは妻の生まれ故郷でもあり、わたしの懐かしい伝道地でもあって思い出深い土地です。当時、洲本支部には大神権者は一人もおらず、宣教師の支部長と数人の信仰篤い人々だけが小さな支部を守っていました。

引っ越し後、程なくして支部長の召しを頂くことになり、また、多少の不安を覚えながら臨んだ初めての出産も無事に済み、長男を我が家に迎えることができました。その後、何度か悲しい思いを経験しましたが、結婚後、7年目にして東京神殿で結び固めの儀式を受けてからは、流産することもなく、現在5人の子供たちに恵まれています。

「この人たちと交わってれば、道を踏み誤ることがない」

洲本支部の支部長として働いている

間に、神戸伝道部には4人の伝道部長が来られました。そのお一人お一人の温かい指導と愛情、模範を肌で感じられたのは、わたしと家族にとってすばらしい経験であり、支えとなりました。そしてまた福知山地方部も、同じように4人の地方部長が召されました。

伝道部長のお宅で開かれた訓練集会を通して、信仰と証を分かち合った経験は、わたしにとって義人として生きることのすばらしさを味わう良い機会となりました。この人たちと交わってれば、決して道を踏み誤ることがないからです。そして、わたしが支部長の召しを頂いてから5人目の伝道部長が昨年6月に神戸伝道部に来られました。この方こそ、8年前東京神殿で、わたしたち家族に結び固めの儀式を執行して下さった松下泰洋兄弟だったのです。

松下伝道部長の下、今まで福知山地方部に属していた洲本支部は、神戸伝道部と大阪伝道部の合併に伴い、今まで伝道部直轄支部であった御坊支部、田辺支部とともに御坊地方部に属することになりました。そして、今年2月11日、アジア北地域第一副会長のサム・K・島袋長老ご夫妻をお迎えしての御坊地方部大会で、地方部長として支持を受け、任命された次第です。島袋長老とお会いしたのも8年前、東京神殿で、松下兄弟にお会いしたのと同じ日だったことを思うと、今

回の召しについて神様のお計らいがあったように思えてなりません。

おいしい実を分かち合える祝福

御坊地方部は、恐らく日本でいちばん小さな地方部なのではないかと思えます。しかし神様は決してそのような支部をも見過ごしにはなさいません。どのような小さな支部であっても、謙遜で、従順な心を持った聖徒たちが集う場所には、主の御霊が降り、大きな喜びがいつもそこにとどまるものです。福音の実がまことにおいしいものであると心から感じている人たちは、決してそれを独り占めしようとはしないはずです。「人が存在するのは喜びを得るためである。」(2ニーファイ2:25) リーハイは息子ヤコブにそう教えています。

19歳のときに主の使いであるハジソン長老から分けていただいた福音の種は、わたしの心の中で生長し、実を結び、わたし自身の伝道を通して、より多くの人々と分かち合うことができました。そして結婚してからは自分の子供たちに、おいしい実を分かち与える祝福にあずかっています。さらに今回のこの召しを通して、御坊地方部の兄弟姉妹やこの地に住んでいる大勢の人々とともにこの福音の実がどんなにおいしいものであるかを分かち合う祝福にあずかっていることを心から感謝しています。(なかざわ・さとる)

中沢 悟 地方部長の紹介

1955年新潟県東頸城郡松代町に生まれる。県立高校を卒業し、静岡県浜松市にある本田技研工業の整備部門会社に就職。19歳のときに浜松支部にて改宗。1979年から2年間、神戸伝道部で専任宣教師として働く。1981年に栗林たき子姉妹と結婚し、男1人女4人の子供がいる。現在、洲本市内の造園会社の総務、経理部門担当。これまでに副支部長、支部書記、伝道主任、日曜学校教師、セミナー教師としての責任を果たしてきた。この召しを受ける前は、12年間、洲本支部の支部長の任にあった。



中沢ご家族

第4回関東・甲信越地区帰還宣教師大会に 430人が参加 —シオン建設のために一つとなって—

去る2月12日、東京吉祥寺の東京ステーキセンターで、アジア北地域会長会第二副会長のレックス・D・ピネガー長老ご夫妻をお招きして、東京北および東京南伝道部主催の帰還宣教師大会が開かれました。この大会は、両伝道部内に在住する帰還宣教師を対象に、彼らに交流の場を提供するとともに、「主イエス・キリストを証する特別な召しに働いた者として、御業を推し進めることの大切さと祝福を思い起こし、シオンの建設のために一つとなる」ことを目的として、3年前から毎年開催されてきました。

今回の大会には熊沢幸雄（東京北伝道部）、グレン・N・ロウ（東京南伝道部）の両伝道部長ご夫妻のほか、過去に日本の伝道部で働かれた10組の伝道部長ご夫妻や、1952年に日本人として初めて召された宣教師の一人である今井一夫兄弟をはじめ、初期の宣教師の方々も多数参加し、総勢430人あまりの大きな大会となりました。大会は①ピネガー長老ご夫妻のお話、②海外の伝道部と日本伝道部をはじめとする初期の伝道部を含めた12の伝道部ごとのリユニオン、③16のコースに分かれての福音の実践を学ぶセミナー（分科会）、④証会、⑤独身者による交流会の順にプログラムが進行しました。

宣教師の召しは永遠である

大会の冒頭、ピネガー長老は、集まった人々の気持ちを代弁するかのようにより、アルマ書第17章から引用され、アルマとモーサヤの息子たちが福音を宣べ伝える旅の途中で再会し、互いの無事と成功とを確認し合ったときの喜びについて話され、集った人々の過去の労をねぎらい、今日ともに集えたこ



帰還宣教師大会で話されるアジア北地域第二副会長のレックス・D・ピネガー長老（東京ステーキセンターで）。

とへの感謝の気持ちを伝えていただきました。

また帰還宣教師は、専任宣教師としての責任を解任されたものの、宣教師としての召しは今も終わっていないこと、その召しがこの世だけにとどまらず、来るべき世に至るまで永遠に続いていることを強調されました（教義と聖約138：57参照）。そして「皆さんが核となり、現在働いている専任宣教師の伝道を助けるという姿勢ではなく、彼らに自分たちの伝道を助けてもらうという自発的な姿勢をもって、毎年一人が一人の人を導くように努力してください」とチャレンジを与えられました。

リユニオンは、今回、両伝道部の帰還宣教師が集ったため、より多くの仲間と旧交を温め、相互の活躍を確認し合い、証と励ましを分かち合う楽しい会になりました。

好評だった16のセミナー

リユニオンに引き続いて行われたセミナーでは、かつての伝道部長や経験豊かな講師の皆さんから実生活での福音の実践について、1時間30分にわたって楽しく学びました。その中の一つ「夫婦伝道」のセミナーの中で、講師の西原良男兄弟とキノノ姉妹は、かつての仙台、大阪両伝道部と神殿で夫婦宣教師として奉仕された日々を振り返って、主が行われた数々の奇跡を紹介して下さった後、その成功の秘訣を尋ねられて次のように言われました。「わたしたちは自分たちでは何もできないことをよく知っていました。ですから毎日、100パーセント完全に主に頼って生活し、伝道していました。そして今もそのようにしています」（アルマ36-37、42章参照）。このお二人の言葉は、そこに参加した人々に、かつて同じ思いと経験を味わった自分を思い起こさせ、現在のあるべき姿を改めて感じさせてくださるものでした。これは、この大会に参加したすべての人々が、いずれかのセッションを通じて少なからず経験された思いでしょう。

なお、企画されたセミナーの16ものコースは、どれもきわめてレベルの高いものであったため、参加された皆さんの帰還宣教師の方々から、これだけでも参加した意義があったとの声が聞かれました。証会も御霊あふれるすばらしい会でした。

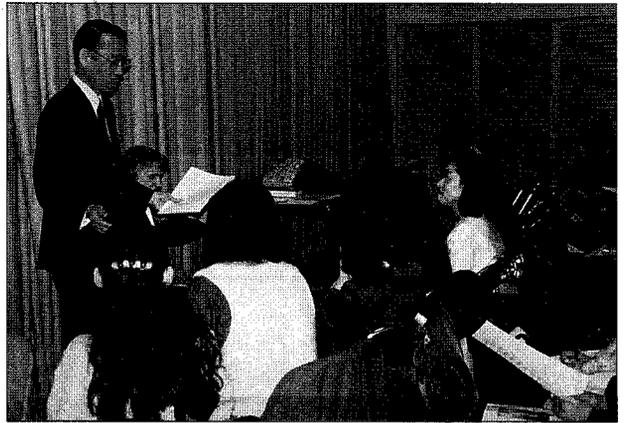
タコスを作っての「独身者による交流会」

また今回初めて企画された「独身者による交流会」は、タコスを一緒に作り、食べながらの楽しい交流の場にな

りました。見知らぬ人同士がお互いに知り合う良い機会でした。

現在、家事や育児、仕事に忙しくているわたしたちにとって、この大会は「主を仰ぎ見」て生活することと（ヒラマン8：15参照）、口を開いて福音を伝える喜びやその大切さを改めて認識し、決意するすばらしい機会となりました。実行委員として働いてくださった兄弟姉妹、セミナーの講師の皆様、

そして大会の間中、100人近い子供たちの世話をしてくださった多くのユニットの独身成人の方々に心から感謝いたします。（レポーター：高西秀志、東京北伝道部第二副伝道部長）



セミナーの「幸福な夫婦生活の送り方」コースで教える東京東ステーキ第一副会長、平野勝也兄弟。

イヤーエンド・セレモニー(卒業式)開催される

— 教育部池袋、渋谷インスティテュート —

2月17日の土曜日、関東地方は珍しく大雪に見舞われました。その中、東京ステーキセンターで、教育部池袋、渋谷インスティテュート合同のイヤーエンド・セレモニー（卒業式）が行われました。

各ステーキ会長会が招かれ、大雪にもかかわらず、135人が出席しました。

イヤーエンド・セレモニーではインスティテュートで16単位取得した人を卒業生、さらに4単位取得した人を特別達成者として表彰します。表彰の際には、例年に倣い、その人の顔写真をスライドで紹介して喜びのメッセージをテープで流しました。

インスティテュートに出席して、伝



受賞者は所属ステーキの会長会の一員から証書を手渡された（写真は東京南ステーキ第一副会長の岸野陽兄弟）。

道に行く決意を強めた兄弟姉妹や80歳を超えてもお学び続けている姉妹、神殿に入る備えができた^{あかし}と証してくれた兄弟もいました。どの受賞者も、知識と証を大いに増し加え、力をわき立たせる機会となったと話しておられました。

美しい独唱の発表もあり、吉野和洋教育部部長、遠藤大横浜ステーキ会長から、受賞者、在校生へのはなむけの言葉が送られました。

吉野部長は、昨年の総大会でのゴードン・B・ヒンクレー大管長の話をされました。ヒンクレー大管長は総大会の時間を延長してその場でセミナー・インスティテュートの生徒を立てさせて、続けて学ぶよう勧め、教会の教育プログラムによって福音の知識が増し、信仰が強まり、自分と同じ価値観を持つ人々との交わりや友情を楽しむことができると言われたそうです。

また、「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る」（ヨエル2：28）との聖句を引用され、インスティテュートがあらゆる人に靈感を与えていると証されました。

遠藤ステーキ会長は、「聖文を心の中で深く考えなさい。その隠された意

味を祈り求めなさい。永遠なるものを常に対象としなさい」というブルース・R・マッコンキー長老の言葉を引用され、人生の中で、インスティテュートを通して聖文研究のもたらす影響の大切さを強調されました。

今年のイヤーエンド・セレモニーは、集会後受賞者のみならず、在校生も参加し楽しめるように、室内オリエンテーリングという活動が用意されました。指導者チーム、池袋受賞者、渋谷受賞者で一斑ずつ構成し、在校生を6つの班に分け、インスティテュートのコースにちなんだ設けられた9つの部屋を回ってもらい得点を競いました。

それぞれの部屋では、歴代大管長の写真並べ、逆さま言葉、連想ゲーム、聖句伝言ゲームなどの福音に関するゲームが企画されていました。

結果は指導者チームが1位に輝き、2位、3位は池袋、渋谷受賞者チームが取り、各在校生チームにとっては買祿を見せつけられる形となり、和やかな雰囲気の中で幕を閉じました。

4月スタートの新年度より、新しいコースも増え、インスティテュートでさらに学び、友情を深めようとの決意を新たにす良い機会となりました。（レポーター：水野博朗、池袋インスティテュート評議会会長）

零下15度の中, 雪中キャンプ

——スカウト札幌第23団からのレポート——

札 幌ステーク・ボーイスカウト札幌第23団のボーイ隊8人が、去る2月10日から12日までの3日間、帯広市近くの然別湖で雪中キャンプを実施しました。

「氷点下の覇者」をテーマに、北海道でも有数の酷寒地での冬期キャンプを実施しました。最後までやり抜くことができるか、一抹の不安を覚えながらも参加者一同、3日間のキャンプにチャレンジしました。

まず、1日目はイグルー（エスキモーの雪〔氷〕の家）作りからスタートです。作り方は、あらかじめ用意してある、氷のブロック（1個約20キロ）を、円形に積み上げ、シャーベット状の雪をセメント代わりに塗り固めていくもので、エスキモーの家と同じようなものを完成させます。特に、屋根は、ドーム状に積み上げる高度な技術が要求されます。ネイチャーセンターのスタッフの指導を受けながら作業を行い、ついに2日かかりで完成させました。

完成したイグルーで、いよいよ寝泊まりすることになりました。外は、予

想どおり零下15度となりましたが、イグルーの中は、意外と暖かく、といっても氷の家ですから、相当な覚悟が必要でした。（就寝装備は、もちろん冬用の寝袋を使用するなど、重装備です。）

寝る前にイグルーで集会を開き、白い息を吐きながらの聖文の学習は、厳しさと霊性が入り交じった忘れられない体験でした。

最終日は、全員でスノーモービルに乗り、森林ツアーです。運転の基礎訓練を受けた後、一人1台のスノーモービルが与えられ、途中雪だまりにハンドルを取られながらも、大自然の中を開拓者のように進みました。厳しかったけれども、有意義な3日間でした。

ボーイスカウト活動は、若い男性、

初等協会の活動の一環です。自然を友として活動する中で、この地球が神様からのすばらしい贈り物だということがよく分かります。また、すべてのことは、みんなで助け合って、成し得るという証を持つことができます。そして様々な活動を通して友情が芽生え、それをはぐくむことができます。

札幌第23団は、ボーイ隊、カブ隊、ビーバー隊を合わせると37人のスカウトと11人の指導者が活動しています。また、本年4月からはシニア隊が発足しました。これからも、青少年の自立と進歩を目指した活動を進めていきます。（レポーター：西田孝雄、札幌ステーク・ボーイ隊隊長）



零下15度の然別湖湖上に完成したイグルーを前に



いざ行かん!! 大自然の中、スノーモービルツアー

主の愛で満たされて

——— 神殿での神様からの^{みやげ}のお土産 ———

高松地方部徳島支部
元東京神殿宣教師
郡田 堯

「**肝**臓が大分悪くなっているので、入院しなさい」という医者のお勧めを振り切って神殿へ行き、月曜日ごとに都立広尾病院へ通院しながら、妻とともに奉仕をさせていただいていました。

10か月後、とうとうこの先生から「今なら、インターフェロンという注射を打てば治る可能性があります。副作用が強いので、入院が必要です」と言われました。菊地良彦神殿長は、すぐに癒しの祝福を施してください、とても口では言い表せない、素晴らしい祝福を頂きました。

不思議な静けさを味わって

故郷で治療するため、神殿を去る日が近づきました。帰る直前、だれもない電気もついていない「日の栄えの部屋」で、じっと座って今後のことを思い巡らしました。「もう奉仕はできないのか……。今度入院すると、22回目になる。教会員になってからでも5回目、わたしに残された時間がまだあるのだろうか……。」他人事のように考えながら、なぜか不思議な静けさを味わって、心の平安を感じていました。「再臨の時が間近に迫って、主の足音がもうそこまで聞こえてきそうなのに、まだランプの皿に油がたまっていないのです。途中で帰るわたしと、黙ってどこまでもついて来てくれる妻を哀れんでください」と一人祈っていました。「預言者エリヤは先祖に与えられた約束を子孫の心に植えることになっていた。

これは、主の来臨の時に全地がのろいをもって打たれて、ことごとく荒廃することのないように、時満ちる神権時代に、主の神殿で死者の贖いと親子の結び固めのために大いなる業が行われることをあらかじめ示すものである。」(教義と聖約138:47-48)

今は、時満ちる神権時代です。福千年が近づき、神殿の業も歩みを速めています。アダム以来のあの膨大な^{ぼうだい}霊の、救いの儀式をできるだけ多く施す必要があります。今わたしたちは、これらの霊の救い手として奉仕できるのです。主は働き人を求めておられます。神殿宣教師として奉仕して下さる方々を、主は求めておられます。これはすばらしい祝福です。

「急に胸が熱くなって、涙があふれました」

洗いの儀式の中の一つの証^{あかし}を紹介したいと思います。ある儀式執行者が初めて儀式を施すことになりました。わ



郡田ご夫妻

わたしは横にいて、施し方を伝えるように言われたので、幕の中に立っていました。彼は初めてですから一生懸命で、わたしの伝えることもなかなか耳に入らず、儀式の言葉も詰まりながら緊張して頑張っておられました。

わたしは思いました。「儀式を施してもらっている霊は、永遠の中で1回だけの経験だが、とても長い間この儀式を待っていたんだらうな」と。そして霊の人に、そっと話しかけました。「施す人は初めてなので、詰まりながらですが一生懸命奉仕されています。……ごめんなさいね」とささやきました。そうするとわたしは急に胸が熱くなって、涙があふれました。

ふと上を見ると、油を注がれている方の頭上に、天井からレースのカーテンのすそのようなものが下がっていて、わたしはしばらく何だろうと見ていました。霊が優しく、じーっとこちらを見ているように感じました。涙の目をこすって、もう一度上を見たら何もなくて、ただ換気の穴だけが見えていました。わたしの心は主の愛でいっぱい満たされ、とても平安でした。わたしはこのことを神殿を去るその日まで、そっと胸にしまっておきました。神殿からのお土産だと思ったからです。

胸の奥底から 愛を伝えてくださる

今も、たくさん先祖の霊が、救いの儀式を待っています。系図を提出されて儀式の順番を待っている霊は、神殿の引き出しの中に、その名前がぎゅぎゅ詰まっています。系図も提出されていない霊の人たちは、霊界で自分の名前が提出される日をじっと待っています。

神殿内には、いつも御^{みたま}霊が満ちみちています。正直に言って自分たちの霊性の低さによってこの世的なことを神殿に持って来こともあります。御霊を受ける受けないは、自分次第です。

喜んで身代わりの儀式を受け、真剣にその死者のことを思いながら儀式をすると、御霊がすばらしい真理の何かを教えてください。心の清さによって胸の奥底から愛を伝えてくれるのです。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように言われました。「死者のために働く人々は、この世的な俸給や報いをいささかも期待していない。さらにこの業は、人々が忠実に、途絶えることなく儀式に携わっているうちに、心に愛が芽生えてくる業である。金銭的には何の見返りもない。しかし救いのために尽くした相手の人々とともに、天において大きな喜びがあるであろう。」（『救いの教義』2：133）この業は、確かに神の業であると証いたします。

大病して知る人の祈りと愛

夜になると星が見え、神の創造、宇宙の偉大さが分かるようになります。大病をすると、健康なときに見えなかったことも見えてきます。入院中に、今、教会に見えておられない兄弟姉妹たちがわたしを慰め、励ましてくださいました。一つ一つの折鶴に、祈りが込められているのが痛いほど身にしみて感じました。

それぞれの事情があって、今、教会へ来られていない兄弟姉妹の皆様、苦しいとき、悲しいとき、どうぞひそかに主を呼び求めてください。そして今、じっと試練に耐えておられるあなたがたは、神様の大切な娘、息子であることを、わたしは知っています。

御子を信じる者の故郷は天上にあります。あなたの故郷は天のお父様のものとあります。主は優しい、大切なあなたがたを心から愛しておられます。そっと耳を澄ませてください、天のお父様の優しい御声が聞こえるでしょう。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じるものがひとりも滅

びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3：16）

菊池長老をはじめ、兄弟姉妹たちの祈りと助けによって、難病は去りました。主は、再びわたしに大切な時間を与えてくださいました。肉体は少々不

自由でも、今のわたしは、主によって靈的に祝福され、大きな喜びを得ています。神は今も、これからも永遠にわたって御業を進めていかれます。主は生きてましますことを証いたします。（こおりだ・たかし）

奇跡に先立つ信仰の大切さ

——20世紀なしの収穫での教訓——

岡山ステーキ鳥取支部
福田正二、節子

「こんなに小さくて大丈夫だろうか。」出荷を2週間後に控え、果樹園中を見回って、不安が頭をよぎった1995年盛夏のことです。

例年なら、枝もたわわに大きく実っているはずの、20世紀なしが小さいのを認めたからです。ピンポン玉くらいの大きさがほとんどで、大きくてもテニスボールのサイズしか太っていないのです。7月23日の梅雨明け以来、1か月間、まったく雨が降っておらず、連日連夜熱帯のような猛暑が続いたせいでしょう。夜間灌水をしているにもかかわらず、焼け石に水という有様です。このままでは、20世紀なしどころか、稲作やほかの作物にも被害が出るに違いない、そういう不安が、日ごとに大きな心配事になっておりました。天災は農業にとって命取りなのです。

アイダホの聖徒の信仰に倣って

折しも、菊地良彦神殿長ご夫妻の訪問を、昨年8月27日、米子ワード神殿特別集会に頂き、お二人のお話と証を、わたしたちは目からうろこが落ちる思いで伺ったのです。

とりわけわたしたちの心に響いたお話は、信仰をもって神殿儀式の御業に

奉仕することにより、奇跡を得たというアイダホ州の忠実な農業を主体とする聖徒たちの実話でした。じゃがいもを植え付ける季節になって雨が何年も降らなくて困っているとき、ステーキ大会に訪れた菊地良彦長老の勧告に従って神殿参入に時間を割き、什分の一を完納し、断食して雨を降らせてくださるよう謙遜に祈り、雨を降らせてくださるとの信仰をもって種をまいたアイダホの兄弟姉妹のお話は自分たちに勇気を与えてくれました。

わたしたちは、思わず顔を見合わせ、「これが答えだね」と、互いに目できさやきました。そして、重くのしかかっていた不安感が、希望の光に変わったのを感じました。このとき、わたしたちも、必ずや雨を頂いてよい実りが得られるとの信仰を持つ必要があると分かったためです。

「その同胞と同様に望みを抱くことができるように、その言葉を自分自信に当てはめて……」（1ニーフアイ19：24）と記したニーフアイのように菊地神殿長のお話を、わたしたちのためと当てはめて考えることができたのです。指導者を通して頂いた主の導きに心から感謝し、わたしたちの都合勝手な怠惰心を悔い改めることになったのです。人間の考えと方法に頼むのではなく、主の業に奉仕することによ



福田ご夫妻

て、主の恵みに頼る信仰を持てるように願うことにしました。

神殿での祈りにも

わたしたちは、アイダホの聖徒たちの模範に倣って、翌日、夜行寝台列車で、一路東京神殿へと向かいました。「どうですか？」優しい笑顔で迎えてくださった神殿長のお尋ねに、「雨が降らず、わたしたちも困っております」と参入の用向きを簡単に答えますと、早速神殿の祈り会で紹介してください、わたしたちのことを個人の祈りに加えてくださるように勧めてくださいました。さらに神殿での祈りにも加えてくださいました。

その日の夜から勧めに従って断食をし、翌朝の祈り会の後、神殿長室で特別に雨ごいの祈りをささげるために備えました。

8月30日、神殿長室で現状報告と短い質疑応答があって、聖文の一部を朗読し、わたしたちはひざまずいて、最初に菊地神殿長がお祈りをささげてくださり、続いてわたしたちが順に祈りました。そのときは、熱く燃え、祈りが聞き届けられるという確信がわき、平安な気持ちと感謝の念に満たされて、身代わりの儀式に臨むことができました。

特別な祈りはこればかりではありません。さらに大管長会の祈りの中にも

加えていただけるように手配して下さったとのことでした。

開かれた天の窓

9月1日早朝、鳥取の自宅に帰ると、家族の者や近所の方々が口々に、8月30日夕方、4時過ぎたころから夜間にかけて、バケツをひっくり返したような夕立があり、それが続く31日の夜も、また雨が降ってきたとうれしそうに知らせてくれました。こうして9月11日の明け方まで、毎日夕方5時近くになると雨が降り始め、早朝5時ごろになると雨が上がり、日中は晴天となるのでした。主は作物の生長に必要な雨量と気象条件をよく御存じで、理想的な環境を備えてくださいました。

収穫作業は、例年より10日余り遅れはしましたが、その後、雨が降らなくなって、足もとが滑ることなく順調な農作業ができたことを感謝しています。

信仰をもって待ち望むということを知っていたおかげで、出荷が遅れても、注文を頂いているお客様には少々待つてくださるようお願いをして、品質の良いものを出荷することができました。一方、神への信仰のない同業者たちは、小さい実を9月初旬に見て、すでにあきらめてしまったため、実が大きくなると信じることも、待つこともできませんでした。早々に収穫し、出荷の始末をしまして、ついに大きな実を手に入れることはありませんでした。

奇跡に先立つ信仰を持つことの大切さを教えられた一件でした。「したがって、あなたがたも信仰を持ちさえすれば、望みを持つことができ、賜物にあずかる者となれるのである。」(エテル12:9)

わたしたちの信頼する指導者の働きと愛、ともに祈って下さった心優しい聖徒の方々の愛と信仰に心から感謝をしています。(ふくた・まさじ 支部幹部書記、ふくた・せつこ 初等協会教師)

新刊紹介

『宣教師ガイドパッケージ』 (改訂版)

カタログ番号 31235 300 1,200円
すべての専任宣教師のためのガイド。ステーク宣教師も使用可。『宣教師ガイド』『宣教師のための福音学習プログラム』と3本のカセットテープが含まれている。カセットテープを含め、新版末日聖典に準拠して改訂されている。

『宣教師ガイド』(改訂版)

31236 300 A4変 277頁 500円
上記セットの単品でも購入できるようになりました。

『宣教師のための福音学習プログラム』(改訂版)

31157 300 A4変 40頁 200円
上記セットの単品。レッスンで教える概念が要領よくまとめられている。

『新会員のためのレッスン』 (改訂版)

31167 300 500円
ステーク宣教師がバプテスマを受けた直後の新会員に教えるためのもの。7冊の小冊子がセットになっている。

『福音の標準教授法パッケージ』(改訂版)

33417 300 700円
6課からなるレッスン、レッスンに関する指示、宣教師用視覚教材、求道者に手渡す6課の学習ガイドの見本のセット。

『回復された真理』(改訂版)

33411 300 B6変 150円
教会の起こりから今日までの発展の歩みを、多数の写真とともに紹介。教会歴史の入門書。ゴードン・B・ヒンクレー著。

3月に召された専任宣教師

第198期生 12人



前列左から1-6, 後列左から7-12

(名前)	(出身地)	(伝道地)
1. 大沼瑞穂	東京北S/越谷W	札幌伝道部
2. 赤羽根純子	仙台S/泉W	福岡伝道部
3. 野間礼子	福岡S/二日市B	東京北伝道部
4. 芦田典子	福岡S/八幡B	東京南伝道部
5. 木村有紀子	岡山M/高松D/高松B	東京南伝道部
6. 山本享子	東京北S/越谷W	名古屋伝道部
7. 喜村純	沖縄那覇S/小禄W	岡山伝道部
8. 香原健二	福岡S/飯塚B	仙台伝道部
9. 上村和紀	東京北S/坂戸B	仙台伝道部
10. 高山峰一	東京北S/浦和W	岡山伝道部
11. 落合貴広	東京S/所沢W	岡山伝道部
12. 木島洋	名古屋西S/岐阜W	岡山伝道部

S:ステーク, M:伝道部, D:地方部, W:ワード, B:支部

新刊ビデオ



福音の教義クラス『モルモン書』の補助教材として制作された本ビデオは、各ユニットに2本無料で支給されていますが、個人でも購入できます。

『モルモン書』ビデオ・プレゼンテーション』
カタログ番号 53911 300

約80分 900円

役員の変動

1996年2月10日から1996年3月11日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 仙台伝道部青森地方部八戸支部
新支部長: 泉田哲志
- 東京北伝道部宇都宮地方部小山支部
新支部長: 嶋田武昭
- 神戸伝道部奈良地方部大和郡山支部
新支部長: 大野敏郎
- 神戸伝道部御坊地方部洲本支部
新支部長: William Simmons

皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載までに時間がかかる場合もありますので、ご了承ください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記)
◎あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

海外に召された日本人宣教師



藤井淳一
オーストラリア
メルボルン伝道部
1996年3月
東京S/三鷹W